

# 2022年度 名古屋大学大学院 理学研究科博士前期課程学生募集要項

## 【アドミッションポリシー】

自然科学に関する確かな基礎学力を持ち、自然の理の探求と解明に挑むため、チャレンジ精神に満ちあふれ、瑞々しい創造力をもつ人を受け入れます。

名古屋大学大学院理学研究科では、2022年4月に組織改編を行います。これに伴い、現行の素粒子宇宙物理学専攻、物質物理学専攻（物理系、化学系）、生命物理学専攻の3専攻を統合し、1専攻（理学専攻）となります。組織改編による新しい教育研究体制として、1専攻（理学専攻）の下に、専門性に応じて緩やかに連携した14のコースを設けます。現行の3専攻で扱う研究分野に応じた12コース（素粒子・ハドロン物理学コース、天文・宇宙物理学コース、宇宙地球物理学コース、凝縮系物理学コース、生物物理学コース、物理化学コース、無機・分析化学コース、有機化学コース、生命情報・システム学コース、遺伝・生化学コース、形態・機能学コース、行動・生態学コース）に加え、従来の研究分野に収まらない融合・学際研究や、学内の研究所（素粒子宇宙起源研究所、宇宙地球環境研究所及びトランスフォーマティブ生命分子研究所）との連携による学際理学コース、及びグローバル30国際プログラム（本学で実施している英語で学位の取れる大学院プログラム）の外国人留学生を中心とした国外からの大学院生の受入を拡充するための国際理学コースの2コースからなります。これにより、現行3専攻の境界にとらわれず領域を超えた融合的・学際的研究を推進する体制を構築します。一方、教員の属する組織は学部教育の観点から、物理学、物質・生命化学、生命物理学の3領域に分かれます。次ページの専攻・領域・研究分野・コース相関表にあるように3領域に所属する教員は、コースに応じて領域を超えて連携し最先端の研究を通じて大学院生の教育を行います。

入学試験は、物理学、物質・生命化学、生命物理学の領域毎に行います。  
出願者は、出願前に志望する全研究室と連絡をとること。その際、研究室担当者と相談の上、出願前に研究室訪問を行っておくことが望ましい。

専攻・領域・研究分野・コース相關表

専攻名	領域名	研究分野	コース名												
			素粒子 ・ ハドロン 物理学	天文 ・ 宇宙物理 学	宇宙 地理 物理学	凝縮系 物理学	生物 物理学	物理 化学	無機 ・ 分析化 学	有機 化 学	生命 情報 ・ シス テム 学	遺伝 ・ 生化 学	形態 ・ 機能 学	行動 ・ 生態 学	学際理 学
理学	物理科学	素粒子論(E)	◎	○											○
		クオーカ・ハドロン理論(H)	◎	○		○									○
		重力・素粒子の宇宙論(QG)	◎	○											○
		プラズマ理論(P)	○	◎	○										○
		宇宙論(C)	○	◎	○										○
		理論宇宙物理学(Ta)			◎	○									○
		銀河進化論(Ω)			◎										○
		複雑性科学理論( $\Sigma_T$ )	◎	○	○										○
		基本粒子(F)	◎	○										○	○
		高エネルギー素粒子物理学(N)	◎												○
理学	物質・生命化学	素粒子物性(Φ)	◎	○	○	○									○
		宇宙線イメージング(μ)			○							◎	○		
		天体物理学(A)		◎	○										○
		宇宙物理学(赤外線)(Uir)	◎	○											○
		宇宙物理学(X線、重力波)(Uxg)	○	◎											○
		複雑性科学実験( $\Sigma_E$ )	◎	○	○										○
		大気圏環境変動(AM)		○	◎										○
		宇宙空間物理学観測(SS <sub>E</sub> )		○	◎										○
		太陽宇宙環境物理学(SS <sub>T</sub> )		○	◎										○
		宇宙線物理学(CR)	◎	○	○								○	○	○
理学	生命理学	太陽圈プラズマ物理学(SW)	○	◎											○
		非平衡物理(R)			◎	○				○					○
		物性理論(凝縮系)(Sc)	○		○										○
		物性理論(量子輸送)(St)	○		○										○
		計算生物物理(B)				◎			○				○	○	○
		固体磁気共鳴(I)		○		○									○
		ナノ磁性・スピントリック(J)		○		○									○
		機能性物質物理(V)		○	○	○									○
		応答物性(Y)		○											○
		生体分子動態機能(D)			◎	○									○
理学	生命理学	光生物物理学(B)													○
		生物無機化学研究室			○	◎	○	○							○
		分子生物学研究室				○									○
		量子化学研究室					○								○
		分子組織化学研究室			○		○	○	○						○
		無機化学研究室					○	○	○						○
		生物無機化学研究室						○	○		○				○
		有機化学研究室						○	○	○	○		○	○	○
		機能有機化学研究室						○	○	○					○
		特別研究室						○	○	○					○
理学	生命理学	生物有機化学研究室							○	○	○				○
		物理化学グループ				◎	○	○							○
		有機金属・材料化学グループ							○	○				◎	○
		分子神経生物学					○			○	○	○	○	○	○
		脳回路構造学				○				○	○	○	○	○	○
		細胞内ダイナミクス			○				○	○	○				○
		細胞間シグナル						○	○	○	○				○
		生殖生物学							○	○	○				○
		発生成長制御学							○	○	○	○			○
		細胞制御学					○			○	○	○	○	○	○
理学	生命理学	分子修飾制御学							○	○	○				○
		超分子構造学					◎	○		○	○				○
		異分野融合生物学				○			○				○	○	○
		遺伝学								○	○	○	○	○	○
		生体機序論								○	○	○	○	○	○
		植物生理学				○			○	○	○	○	○	○	○
		細胞生物学			○				○	○	○				○
		染色体生物学				○			○	○	○	○			○
		器官機能学				○			○	○	○	○	○	○	○
		海洋生物学							○	○	○	○	○	○	○
理学	生命理学	多細胞秩序							○	○	○	○	○	○	○
		植物分子シグナル学						○			○	○	○	○	○
		微生物運動						○			○	○	○	○	○

◎ 主たるコース  
○ ◎以外で属するコース

コース名	主　要　内　容
(a) 素粒子・ハドロン物理学	素粒子、ハドロンそして重力の基本法則とそこから導かれる現象を理解し、新たな物理法則の理論的研究を行う、もしくは加速器実験・非加速器実験による新粒子・新物理現象探索を行う。(b) (c) コースが扱う初期宇宙や高エネルギー天体现象の物理的基礎を与えるとともにその研究で連携し、新物理現象探索や量子場の理論の物性系の応用の研究において(d) (f) (g) コースと連携する。
(b) 天文・宇宙物理学	星間物質と星・惑星の誕生、銀河・銀河団と進化並びに宇宙論的な現象を理解する。その手法は一般相対論・磁気流体力学などの宇宙物理学基礎理論に基づく理論的研究及び、電波からガンマ線までの全波長域の電磁波と重力波に対する地上とスペース観測である。宇宙観測による新粒子・新物理現象探索の研究において(a)コースと連携し、またプラズマ物理学や観測手法論等は(c)コースと連携する。
(c) 宇宙地球物理学	宇宙・太陽・地球を一つのシステムとして捉え、銀河宇宙、太陽・太陽圏、電磁気圏、大気圏に生起する多様な現象のメカニズムと相互作用を理論研究と観測研究の連携を通して解明する。(b)コースの宇宙・天体现象の研究と連携する。
(d) 凝縮系物理学	結晶固体、準結晶、量子液体、液晶、コロイド、アクティブマターなど、膨大な数の粒子が集合することで生み出される現象を理解し、それに基づいて新奇な現象を解明する。(a)コースの場の理論や、(f) (g) (h) コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(e) (h) (j) コースの物理学的基礎を与える。
(e) 生物物理学	生命現象を物理学の研究対象と捉え、統計力学や、最新の顕微操作や分光技術、大規模な新規シミュレーションを用いて、第一原理的に理解することにより、生物の複雑な階層的かつ普遍的な法則を理解する。(d) コースと手法や基礎理論の開発の面で協働し、また(f) (g) (h) (i) (j) (k) (l) コースの研究と連携し、モデル化による物理学的基礎を与える。
(f) 物理化学	化学的現象を物理学的な方法論を用いて解析することで、物質及び物質が生み出す現象を理解する。またそれらをもとに、新物質を生み出す。(g) (h) コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d) (e) (i) (j) コースの化学的基礎を与える。
(g) 無機・分析化学	無機物質を中心とした化学反応の開拓、新奇物質の創製及び化学現象解明を行うとともに、化学現象を利用した分析のための新しい方法論を生み出す。また、無機物質が関与する生物学的現象の解明を行う。(f) (h) コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d) (e) (i) (j) コースの化学的基礎を与える。
(h) 有機化学	有機物質を中心とした化学反応の開拓、新奇物質の創製及び化学現象解明を行うとともに、生物学的現象を化学的な視点から解明する。(f) (g) コースが扱う物質の研究と連携し、さらに(d) (e) (i) (j) コースの化学的基礎を与える。

(i) 生命情報・システム学	生命現象をシステムとして理解するために、情報科学的な手法も取り入れて、システムの構成要素の同定と特性の解明、構成要素間のネットワーク構造の理解やシミュレーションを行う。(j) (k) (l) コースが扱う生命科学の各階層にシステム生物学的な視点を与えることで連携する。(e) コースの生物物理学や (h) コースの有機化学から、物理的、化学的な基礎を得る。(e) コースの生物物理学には、システム生物学的な基礎を与える。
(j) 遺伝・生化学	生命現象をつかさどる生体分子や遺伝子、タンパク質をその構造や機能の観点から理解するために、分子構造解析や遺伝学、生化学を基盤とした解明研究を行う。(i) (k) (l) コースが扱うシステム、細胞、行動生態の研究と連携する。(d) コースの凝縮系物理学コース、(e) コースの生物物理学や (h) コースの有機化学から、物理的、化学的な基礎を得る。(e) コースの生物物理学には、生化学的な基礎を与える。
(k) 形態・機能学	生物の発生、再生、生殖、それによって作られる組織や器官の機能を、細胞の機能と細胞相互関係の観点から解明するため、発生生物学、細胞生物学や生理学を基盤とした解明研究を行う。(i) (j) (l) コースが扱うシステム、遺伝子やタンパク質、行動や進化の研究と連携する。(d) コースの凝縮系物理学コース、(e) コースの生物物理学から、物理化学的な基礎を得る。
(l) 行動・生態学	生物個体の生態や行動、生態系、進化など、マクロスケールでの生命現象の解明を行う。(j) (k) (l) コースが扱うシステム、遺伝子やタンパク質、細胞レベルでの研究と連携する。(c) コースの宇宙地球物理学から、地球科学的な基礎を得るとともに、同コースに生態学的な基礎を与える。
(m) 学際理学	理学研究の広い意味での新学術を創成する。宇宙線実験を応用した考古学研究や地球科学研究や、生命現象を理解し、機能を合成により創生し、さらには制御につなげるための、分子科学的研究を行う。(a)-(1)の各コースと広く連携し、新しい研究分野開拓を行う。国際高等研究機構に所属する教員など、専攻外の審査員に加えた学際的な体制で学位審査を行う。
(n) 国際理学	現行の国際コース (G30) を再編し、さらなる留学生の受入を行う。受け入れた留学生の学部学生時の履修状況に応じて後取り制度を柔軟に適用し、博士前期課程 1 年次の終わりごろをめどに(a)-(1)のコースに転コースできる。また国際理学コースのまま学際理学コースと同じく新しい研究分野開拓を行うこともできる。

## 1 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 日本の大学を卒業した者及び2022年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2022年3月末日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2022年3月末日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2022年3月末日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2022年3月修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2022年3月末日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2022年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 2022年3月末日で大学に3年以上在学となる者、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、2022年3月末日までに22歳に達する者

- （注）1. 出願資格（9）による募集は、2021年10月発表の学生募集要項により行う。
2. 出願資格（10）により出願する者については、事前審査を行う。該当者は下記により、事前審査申請書類を請求すること。その際、封筒の表に「前期課程の事前審査書類請求」と朱書きし、速達の返信用封筒（角形2号—約33cm×24cm、430円切手を貼付、宛先明記）を同封すること。

専攻名	領域名	事前審査書類請求締切	
理 学	物理科学	2021年 7月30日（金） 必着	下記事項を記入した書類（様式自由） を提出し、請求のこと。 ①氏名 ②住所・電話番号 ③在学大学名（学科・学年）又は履歴 （高校卒業後、現在まで） ④志望領域名
	物質・生命化学	2021年 7月12日（月） 必着	
	生命理学	2021年 7月30日（金） 必着	

## 2 募集人員

専攻名	領域名	募集人員
理学	物理科学 * <sup>1</sup>	96名
	物質・生命化学	48名
	生命理学	44名
	合計	188名

\*<sup>1</sup> 1の募集人員は、自己推薦入学試験の募集人員を含む。  
自己推薦入学試験の詳細については、別途募集要項、又は自己推薦入試ホームページ  
<http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/entrance/>を参照のこと。

## 3 願書受付期間

領域名	受付期間	受付時間
物理科学	2021年 8月30日(月) ～2021年 9月 1日(水)	10時～12時 13時～16時
物質・生命化学	2021年 7月20日(火) ～2021年 7月28日(水)	
生命理学	2021年 8月30日(月) ～2021年 9月 3日(金)	

(注) 郵送による場合も、上記期間内で、最終日の16時までに到着したものに限り受付ける。

## 4 出願書類等

### (1) 入学志願票、履歴書、写真票、受験票

[本研究科所定の用紙に必要事項を記入の上、出願前3ヶ月以内の撮影の写真を貼付すること。]

### (2) 成績証明書

### (3) 卒業(見込)証明書

[本学部卒業(見込)者は不要。出願資格(2)により出願するものは、学位授与機構発行の学士学位授与(見込)証明書を提出すること。]

### (4) 入学検定料 30,000円。

卷末の「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料の払込方法」を参照の上、コンビニエンスストア又はクレジットカードで払い込むこと。支払い後、自ら印刷した「収納証明書」を志願票の所定欄に貼ること。

自然災害等により被災した入学志願者に係る検定料の特別措置については名古屋大学ホームページの下記サイトでご確認ください。

<http://www.nagoya-u.ac.jp/admission/gs-exam/saigai/index.html>

### (5) 受験票送付用封筒 1枚

[長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、本人の宛名を明記し、84円切手を貼付すること。]

### (6) 連絡用シート

[「合格通知書」「入学手続書類」送付用。

入学志願票の「通知等の送付先」と同一の住所を正確に記入すること。]

### (7) 受験承認書

[官公署その他民間会社等に在職している者は、提出すること。]

### (8) 国費外国人留学生証明書

[現在、国費外国人留学生である者は、在学大学が発行する証明書を提出すること。]

- (9) 卒業研究の概要または将来の抱負  
**(物質・生命化学領域及び生命理学領域の志願者のみ提出)**  
すでに卒業研究を行っている者はその大要を、行っていない者は本領域へ入学した場合の抱負について、ホームページに別に掲載しているwordファイルをダウンロードし、作成後印刷して提出すること。
- (10) 英語検定試験（TOEFL又はTOEIC）のスコア  
**(物質・生命化学領域のB入試志願者のみ提出)**  
提出にあたっては、7選抜方法の注意事項の※3（8頁）の提出要領を熟読のこと。
- (11) 科目選択票  
**(物質・生命化学領域のB入試志願者のみ提出)**  
提出にあたっては、7選抜方法の注意事項の※2（8頁）の提出要領を熟読のこと。

## 5 出願手続

- 出願者は、前項（1）～（11）の書類等を本研究科教務学生係へ提出すること。  
出願書類の完備しない願書は受理しない。
- ◎ 注意事項
- (1) 出願書類を郵送する場合は、本要項巻末の「出願用宛名用紙」をカラーで出力し、角形2号の封筒に貼りつけて、締切日時までに必着するよう送付すること。
- (2) 出願後は記載事項の変更及び検定料の払い戻しはしない。
- (3) 障害等があつて試験場での特別な配慮を必要とする者にあつては、2021年7月12日（月）までに、以下3点を添えて、その旨を教務学生係へ申し出ること。
- (a) 受験上の配慮申請書（障害の状況、受験上配慮を希望する事項とその理由書を記載したもの、様式随意、A4サイズ）
- (b) 障害等の状況が記載された医師の診断書、障害者手帳等（写しでもよい）。
- (c) 障害等の状況を知っている第3者の添え書（専門家や出身学校関係者などの所見や意見書）。適宜それ以外の書類を添付しても構わない。
- なお、受験や入学後の修学に関して相談の希望がある者は、出願期限までにお問い合わせください。

## 6 入学検定料の払込方法

- (1) 入学検定料 30,000円  
※別途、払込手数料（コンビニ支払い：616円、クレジットカード：840円）が必要となります。
- (2) 払込期間（日本時間）

物理科学	2021年 8月27日（金）10時～2021年 9月 1日（水）15時
物質・生命化学	2021年 7月19日（月）10時～2021年 7月28日（水）15時
生命理学	2021年 8月27日（金）10時～2021年 9月 3日（金）15時

- (3) 払込方法  
入学検定料の支払いは、以下のいずれかの方法で行うこと。  
ア コンビニエンスストア（日本国内のみ）  
イ クレジットカード  
詳細については、巻末「コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法」を確認してください。
- (4) 入学検定料の返還について  
出願書類を受理した後は、納入済みの入学検定料は返還いたしません。ただし、以下に該当する

場合は、納入された入学検定料を返還します。なお、返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

ア 入学検定料納入後、出願しなかった場合又は出願が受理されなかった場合

イ 入学検定料を二重に払い込んだ場合

※入学検定料の返還は銀行振込で行われます。海外の銀行の口座に返還する場合には、返還される金額は大きく減額される他、返還に多大な日数を要しますので、入学検定料の納入は慎重に行ってください。

返還請求方法については、名古屋大学ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/>) →入学案内 →大学院入試・学部編入試験など→入学検定料についてを確認してください。

## 7 選 抜 方 法

### 学 力 試 験

学力試験の時間割表は、受験票とともに送付する。

領域名	試験期日		試験科目	
物理科学	2021年 9月24日(金) 9月25日(土) 9月26日(日)		1. 物理学筆記試験 2. 外国語(英語: 読解力と作文能力を測る。) 3. 口述試験(物理学一般及び卒業研究または実験の中間報告他について試問する。) (1、2の試験の結果により3の受験資格者を決める。)	
物質・生命化学	A入試	2021年 8月 6日(金)	口述試験 (オンライン試験)	卒業研究あるいはそれに準ずる内容(予定を含む)を10分にまとめた発表と質疑応答を行う。
	B入試	2021年 8月26日(木) 8月27日(金)	1. 筆記試験: 有機化学、無機・分析化学、物理化学、生物化学から3科目を選択 <sup>※2</sup> 。 2. 外国語 <sup>※3</sup> : 英語検定試験のスコアによって判定する。 3. 口述試験: 卒業研究の概要または将来の抱負についての試問	
生命理学	2021年 9月29日(水) 9月30日(木)		1. 専門科目: 生命科学の分野(細胞生物学、生化学、遺伝学、生理学、発生学、生物物理学を含む)から出題し、解答はマークシート方式とする。 2. 外国語: 英文和訳、和文英訳。辞書(紙・電子)は一切持ち込み不可。 3. 口述試験(1、2の試験の結果により3を行う。)	

### ◎ 注意事項

※1 物質・生命化学領域では、多様な人材を積極的に受け入れ、大学院の活性化を図るため、名古屋大学理学部化学科以外の志願者を対象に、口述試験(A入試)を行う。

名古屋大学理学部化学科以外の志願者は、物質・生命化学領域の口述試験による選抜(A入試)と筆記試験等による選抜(B入試)の一方または両方を受験することができる。

なお、B試験については、コロナウイルス感染防止等の観点により、オンライン試験となる場合がある。

※2 物質・生命化学領域のB入試の試験科目については、出願時に「科目選択票」(所定用紙)により、有機化学、無機・分析化学、物理化学、生物化学のうち、試験科目として希望する3科目を申し出ること。

### ※3 物質・生命化学領域B入試の外国語(英語)試験について

英語検定試験(TOEFL又はTOEIC)をもって代え、そのスコアで評価する。

- (注1) TOEIC、TOEFL両方のスコアを提出してもよい。
- (注2) 願書受付締切から遡って2年以内に受検したものを有効とする。複数回検定を受けている者は、最も良い得点を提出できる。また、出願後に受けた検定試験の結果が良い場合、本試験時に新たな成績証明書の原本をもって申告すれば、そちらの得点を有効とする。
- (注3) TOEICのスコアシートを提出する場合  
Official Score Certificateの原本を、出願時に提出するか、本試験時に持参する。団体特別受験制度（IP:Institutional Program）のスコアは受け付けない。
- (注4) TOEFLのスコアシートを提出する場合  
Examinee Score Recordの原本を、出願時に提出するか、本試験時に持参する。あるいは、本学向けにOfficial Score ReportをETSから7月28日（水）までに送付する方法でもよい（手続き時に名古屋大学のInstitution Code 0312、Department Code 62を指定すること）。iBT（Internet-based Test）及びPBT（Paper-based Test）のスコアを有効とし、その他の試験区分のものは受け付けない。なお、iBTについては、Home Editionも可とする。
- (注5) いざれかの検定試験を受検予定でも出願可とし、本試験までに本人宛の成績証明書の原本を入手していれば、その得点をもって外国語試験のスコアとする。この場合、試験当日、1日目16時までに、成績証明書の原本を化学事務室へ提出すること。
- (注6) 本試験時に英語検定試験未受験、もしくは成績証明書を入手できなかつた者も、外国語試験得点を0点として入試の成績評価を行う。
- (注7) 提出されたスコアシートの返却には、応じられない。

## 8 合格者発表

領域名	日時	場所
物理科学	2021年9月27日（月） 正午頃	理学部C館1階教務学生係事務室に掲示し、翌日理学研究科ホームページ <a href="http://www.sci.nagoya-u.ac.jp">http://www.sci.nagoya-u.ac.jp</a> に掲載する。
物質・生命化学	2021年8月30日（月） 正午頃	
生命理学	2021年10月1日（金） 正午頃	

合格者には、「合格通知書」を10月中旬に、「入学手続き書類」を2月中旬に送付する予定である。

## 9 入学料及び授業料

入学料 282,000円

(2022年3月下旬の大学が指定する入学手続き期間内に納めること。)

授業料 前期分 267,900円（年額535,800円）

(注1) 授業料は、前期及び後期の2期に分けて、前期にあっては5月、後期にあっては11月に納入する。

(注2) 入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合には、改正時から新たな納入金額が適用される。

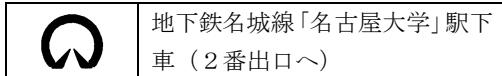
## 10 そ の 他

- (1) 出願にあたって提供された氏名・生年月日・住所その他の個人情報は、入学選抜、合格発表、入学手続き、及びこれらに付随する事項、並びに入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うためのみに利用する。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。
- (2) 物理科学領域については、入試に関する最新の情報を随时ホームページ  
<http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/entrance/> に公開するので参照すること。

2021年7月

名古屋市千種区不老町（郵便番号464-8602）  
名古屋大学大学院理学研究科  
教務学生係

電 話 052-789-2402  
5756



地下鉄名城線「名古屋大学」駅下  
車（2番出口～）

### 自然災害対応等 緊急の連絡について

感染症や自然災害等により、試験日程の変更等が生じた場合は、下記の理学研究科ホームページでお知らせしますので、出願前や受験前に必ず確認してください。

- ◎理学研究科ホームページ（大学院受験生の方へ） <http://www.sci.nagoya-u.ac.jp/graduate/kinkyu.html>  
◎連絡窓口 名古屋大学大学院理学研究科 教務学生係 052-789-2402・5756

## 名古屋大学大学院理学研究科要覧

領域名	研究分野	コード番号	教員				
			教 授	准 教 授	講 師	助 教	
物理科学	【理論】	素粒子論 (E)	010 棚橋 誠治 ◇	前川 展祐			
			久野 純治	早川 雅司			
			重森 正樹	戸部 和弘			
				酒井 忠勝			
			023 原田 正康	野中 千穂			
			032 野尻 伸一	南部 保貞	柳 哲文		
			040 渡邊 智彦		前山 伸也		
			052 杉山 直	市來 淨興			横山修一郎
			051 大塚修一郎	井上 剛志			小林 浩
				竹内 努			
			131 沼波 政倫 ◇				
			012 宮崎 州正		川崎 猛史		
			021 紺谷 浩	小林 晃人	山川 洋一		
				大成誠一郎			
	物性理論 (量子輸送) (St)	022 河野 浩	倭 剛久				山影 相
		032 TAMA Florence					木村 明洋
	【実験】	基本粒子 (F)	061 中村 光廣 ◇ ◇		中野 敏行		
					佐藤 修*		
			071 飯嶋 徹	居波 賢二			◎ 堀井 泰之
			081 清水 裕彦	北口 雅暁			奥平 琢也
			230 宇宙線イメージング ( $\mu$ )	森島 邦博			山本 宏昭
			101 天体物理学 (A)	田村 陽一			
				立原 研悟			
			111 宇宙物理学 (赤外線) (Uir)	松尾 太郎	森鼻久美子 ◇		國生 拓摩
			122 宇宙物理学 (X線, 重力波) (Uxg)	中澤 知洋	石橋 和紀		
					三石 郁之		
			152 複雑性科学実験 ( $\Sigma_E$ )	永岡 賢一 ◇			
	【宇宙地球環境研究所】	固体磁気共鳴 (I)	112 固体磁気共鳴 (I)	小林 義明	清水 康弘		
			115 ナノ磁性・スピニ物性 (J)	谷山 智康	松下 琢		井村敬一郎
							小森祥央
			113 機能性物質物性 (V)	寺崎 一郎			中埜彰俊
			240 応答物性 (Y)		谷口 博基	出口 和彦	
			114 生体分子動態機能 (D)	内橋 貴之	村上 緑		
			111 光生体エネルギー (G)	野口 巧	加藤 祐樹		鈴木直
			082 細胞情報生物物理 (K)	三野 広幸			
				檍 介			
			220 大気圏環境変動 (AM)	水野 亮	長濱 智生		
			181 宇宙空間物理学観測 ( $SS_E$ )	平原 聖文	野澤 悟徳	大山伸一郎	
					大塚 雄一		
			184 太陽宇宙環境物理学 ( $SS_T$ )	草野 完也	増田 智		家田 章正
			191 宇宙線物理学 (CR)	伊藤 好孝	松原 豊 ◇	奥村 曜	毛受 弘彰
				田島 宏康	三宅 芙沙		藤木謙一
			200 太陽圈プラズマ物理学 (SW)	徳丸 宗利 ◇	岩井 一正		

領域名	研究分野	コード番号	教員			
			教授	准教授	講師	助教
物質・生命化学	有機・生物化学 〔天然物有機化学、生物有機化学 反応有機化学、合成有機化学 構造有機化学、生物化学〕 有機化学研究室	120	伊丹 健一郎 ◎ 山口 茂弘 ◎ 野依 良治 阿部 洋 ◎	伊藤 英人 八木 亜樹子 * 村井 征史 多喜 正泰 *	大城 宗一郎 木村 康明	天池 一真
						JUNG Jieun 納戸 直木
						橋谷 文貴
	物理化学 〔量子化学、構造化学、固体化学 光化学、物性化学、理論化学 界面化学〕 光物理化学研究室	126 146	南保 正和 *	伏谷 瑞穂 加藤 景子	松田 晃孝	
	物性化学研究室	147	阿波賀 邦夫	松下 未知雄	張 中岳	
	量子化学研究室	145	柳井 育 ◎	藤本 和宏 *		齋藤 雅明
	物理化学グループ	140		北浦 良	大町 遼	
	無機・分析化学 〔錯体化学、有機金属化学 超分子化学、触媒化学 生物無機化学、溶液化学、分析化学〕 分子組織化学研究室	156	田中 健太郎	山田 泰之	河野 慎一郎	
	無機化学研究室	150	唯 美津木	郷次 智	松井 公佑	
	生物無機化学研究室	154	莊司 長三	愛場 雄一郎		有安 真也

領域名	研究分野	コード番号	教員			
			教授	准教授	講師	助教
生命医学	分子神経生物学	230	森 郁恵		中野 俊詩	塚田 祐基
	脳回路構造型	340	上川内あづさ		石川 由希	田中 良弥
	植物第3講座*	222			金岡 雅浩	
	細胞内ダイナミクス	331	五島 剛太		荒木 聰彦	山田 萌恵
	細胞間シグナル	360	松林 嘉克			
	生殖生物学	073	田中 実			菊地真理子
	発生成長制御学	350		吉岡 泰	杉山 伸章	八木 克将
	細胞制御学	112	木下 専		上田(石原)奈津実 細川智永	
	分子修飾制御学	122	嘉村 巧			小原 圭介 西村 浩平
	超分子構造型	310		成田 哲博	瀧口 金吾	
	異分野融合生物学	142	岩見真吾			岩波翔也
	遺伝学	151	大澤志津江			前川 納美
	生体機序論	160	久本 直毅	花房 洋		Strahil Postuhov
	植物生理学	281	木下 俊則◎	高橋洋平*	井上晋一郎	高橋 宏二
	細胞生物学	291			平子 善章	
	染色体生物学	124		西山朋子		
	器官機能学	102	日比 正彦	清水 貴史		橋本 寿史
	海洋生物学	271	五島 剛太			森田 真布直人
	多細胞秩序	120	打田 直行		松尾 拓哉	
	植物分子シグナル学	252	多田 安臣	井原 邦夫		野元美佳
	微生物運動	370	小嶋 誠司	野間健太郎		

\*印の研究分野については、募集を行わない。

理学研究科要覧（P11～P13）において

(注)(1)◎印は、兼任教員を示す。

(2)\*印は、特任教員を示す。

(3)◇印は、2023年3月31日定年退職予定教員を示す。

(4)研究分野欄の( )は、研究室の略称を示す。Σは核融合科学研究所。

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	【理論】 素粒子論 (E)	1GeV領域から $10^{19}$ GeVにわたる広いエネルギー領域の素粒子現象の研究を通じて、標準模型を越える新しい理論体系およびその枠組としての場の理論のダイナミックスを研究している。現在行っている主なテーマは、超対称性理論や余剰次元理論、大統一理論、コライダー物理・フレーバー物理などの素粒子現象、宇宙素粒子現象、超弦理論、量子電磁気学の超高精度計算、対称性の力学的破れ、格子ゲージ理論の研究など。その他、場の理論の形式的整備の研究を行っている。
	クオーク・ハドロン理論 (H)	強い相互作用の基本理論である量子色力学(QCD)におけるクオーク・グルーオンと、その多体系であるハドロンの多様な現象、及び強結合理論の力学で記述される様々な物理の解明を主な研究目的とする。主な研究対象は、カイラル対称性の自発的破れと質量の起源、高温度・高密度等の極限状況でのQCDの相構造と相転移機構、クオーク・グルーオン プラズマの物性、高密度核物質中のハドロンの性質変化と中性子星内部や超新星爆発における状態方程式への影響、軽いスカラー中間子の組成構造解明、およびエキゾチックハドロンなどである。これらの物理現象解明を目標に、新しい理論や模型を開発しながら、ハドロン有効模型を用いた解析、高エネルギー重イオン衝突実験物理理解に向けた現象論的模型の開発と解析、格子QCDを用いたQCD基礎論に基づく研究などを行っている。
	重力・素粒子的宇宙論 (QG)	一般相対論ならびに重力を含む素粒子とその相互作用の統一理論の候補である超弦理論などの高次元重力理論の研究を行い、初期宇宙のインフレーションや現在の宇宙の加速膨張などの宇宙論的问题ならびにブラックホールなどの強重力下での現象の解明を目指す。また、重力理論そのものの性質に対して観測等から手がかりや制限を見出すことを目標とする。
	プラズマ理論 (P)	電磁場と無数の荷電粒子からなる非線形系としてのプラズマは、宇宙空間のいたるところで粒子加速や乱流輸送、爆発現象などを引き起こすとともに、核融合実験や高強度レーザー実験においても主たる研究対象となっている。これらのプラズマに生起する非線形現象を理論的に研究している。最近取り組んでいる研究テーマは、オーロラの発達と構造変化、無衝突プラズマにおける乱流輸送、爆発的磁気エネルギー解放現象などである。これらを解明するために、解析的アプローチだけでなく、超並列コンピュータを用いた大規模シミュレーション研究を積極的に進めている。
	宇宙論 (C)	宇宙構造の起源と進化について理論的な研究を全般的に行ってい。最新の観測結果に基づきつつ、初期宇宙から現在の宇宙までを理論的に明らかにすることが研究目的である。近年の宇宙論は観測的進展が著しく、その理解のために理論研究の果たす役割は大きい。本研究室は宇宙全体の姿を明らかにするような宇宙論的観測プロジェクトにも理論の立場から参加している。研究の手法としても、純粋な解析的理論から大規模数値シミュレーション、さらには観測データの理論解析に至るまで、実に多様なアプローチが取られている。
	理論宇宙物理学 (Ta)	宇宙における天体形成や進化を解明することで、物理学を宇宙の進化の中で系統化することを目指す。銀河・星・惑星などの形成・進化の過程で重要な役割を演じる物理現象を、解析的及び数値シミュレーションの手法を用いて理論的に調べる。その際に現象を構成している物理過程の研究を重視し、得られた知見を他の分野の物理学にも応用することを目指す。

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	銀河進化学 ( $\Omega$ )	銀河は星と星間物質、暗黒物質からなる大集団であり、それ自体複雑な構造を持つと同時に宇宙論的なスケールでの基本構成単位となる天体でもある。銀河は様々な波長・エネルギー・スケールで多様な姿を持ち、多波長での研究が本質的に重要である。138億年にわたる宇宙進化の文脈から、銀河の形成・進化を多角的に研究し、また銀河形成に関する宇宙論的問題にも取り組む。多波長的アプローチという観点から、地上観測機器、宇宙望遠鏡、人工衛星等のデータ解析、および観測を再現する銀河形成進化の理論モデルの構築、そして最新のデータ科学の方法による基本方程式の構築という3つの視点から研究を進めている。
	複雑性科学理論 ( $\Sigma_T$ )	宇宙にある殆どの物質はプラズマ状態にある。多数の荷電粒子と電磁場から構成されるプラズマの物理系は、複雑性と呼ばれる非平衡かつ強い非線形性を有する状態にあり、非常にチャレンジングな研究領域である。 $\Sigma_T$ 研では、この複雑性科学のエッセンスを豊富に含んでいる磁場閉じ込め核融合プラズマを主な研究対象として、大型計算機を用いた理論シミュレーション研究を進めている。現在の主な研究テーマは、磁場閉じ込めプラズマにおける乱流輸送、構造形成、輸送制御に関する大規模シミュレーション研究やプラズマ輸送現象を表現する理論モデルの構築などに加えて、機械学習を利用したデータ解析、実験データとの直接的な比較手法の開発といったデータ科学研究、大規模シミュレーションに不可欠な数値計算技法や数値モデリングの研究などである。
	非平衡物理学 (R)	学部の熱力学・統計力学で学ぶ対象は、例外なく熱平衡系である。しかし身の回りを眺めると、面白い現象はほぼ例外なく、熱や物質の激しい流れを伴う非平衡状態で起こっている。だが、それらを理解するための普遍法則は確立していない。R研では、様々な非平衡現象を計算機シミュレーションおよび解析的手法を用いて研究している。現在、研究室で行われている研究の主な内容は、(1) ソフトマターの非平衡統計物理学：コロイド系におけるブラウン運動や巨視的な粘弾性などのレオロジー挙動、自己組織化など。(2) 過冷却液体のガラス転移の理論的研究。ガラス転移の熱力学描像の確立に向けた大規模数値シミュレーション。(3) 非平衡現象の数理模型の解析。などである。
	物性理論（凝縮系）(Sc)	量子力学に従う多粒子が相互作用する物質中では、量子性が本質な興味深い現象が発現する。典型例として、非従来型超伝導の発現や多彩な相転移現象・新規準粒子の出現による新物性がある。このような凝縮系物理における重要問題を、場の理論に基づき解析的および数値的に研究している。最近の主なテーマは以下のとおりである。(1) 電子相関の理論：遷移金属化合物や希土類金属、有機導体では、電子間に働く強い相互作用によって、高温超伝導現象など様々な興味深い現象が発現し、その起源の解明に取り組んでいる。(2) 量子相転移現象：量子力学的な揺らぎが協力的に発達した金属において実現する、電子液晶秩序などユニークな相転移現象や、臨界現象を研究している。(3) 新規準粒子による創発現象：金属中では、波動関数のベリ一位相により、有効質量ゼロのDirac粒子など多彩な準粒子が出現し、その興味深い物理現象を研究している。

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	物性理論（量子輸送）(St) 計算生物物理(B) 【実験】 基本粒子(F)	<p>物性物理学における現代の諸問題のなかでも、スピントロニクス、トポロジカル物質、量子輸送現象を中心的に理論的に研究している。スピントロニクスは電子のスピンを利用してエレクトロニクスの技術革新を図る分野であり、物理学の観点からも興味深い新現象が多い。また近年、固体内電子の波動関数が非自明なトポロジーをもつ新しいクラスの物質（トポロジカル物質）の存在が認識ってきた。これらについて、量子統計力学や場の量子論の手法にもとづき解析的・数値的に研究している。最近の研究テーマは、(1) トポロジカルな磁化構造と電気伝導、(2) 電子以外の素励起によるスピントロニクス現象、(3) 反強磁性体やトポロジカル物質を舞台としたスピントロニクス現象、(4) 力学的スピントロニクス現象、(5) 新規トポロジカル量子現象の提案、など。</p> <p>Biological complexes, structured ensembles of proteins and nucleic acids, perform many vital cellular functions and dysfunctions of those result in severe diseases. In order to understand diseases and develop treatments, the functional mechanisms of these biological complexes need to be elucidated. A crucial step in this process is the characterization of the structure and dynamics of these complexes. Our goal is to develop computational methods to obtain atomic level description of the functional states of biological complexes. Such methods will rely on the integration of computational simulations with various experimental data such as high resolution X-ray crystallography, lower resolution cryo-EM and X-ray Free Electron Lasers.</p> <p>The research in the lab is interdisciplinary. We use physics, chemistry, and computational science to study biological systems. More specifically, to describe the dynamics and energetics of biological molecules, we use empirical force fields based on the physico-chemical properties of atoms or, to reduce complexity, we also use coarse-grained models. Then methods such as molecular dynamics simulations/normal mode analysis are used to obtain structural models by incorporating experimental data into the modeling procedure, where numerical optimizations techniques, such as Monte Carlo and gradient following techniques, need to be implemented in programs.</p> <p>素粒子現象をサブミクロンの精度で可視化できる原子核乾板とその読み取り装置を用いて、素粒子・宇宙をはじめ、それらにとどまらない研究を展開している。原子核乾板はタウニュートリノ検出の実績をもつ世界で唯一の検出器であり、この特徴を生かしニュートリノ混合の研究を推進してきた。また10nmサイズの超微粒子原子核乾板を独自開発し、宇宙の暗黒物質を検出する実験を準備している。宇宙の暗黒物質の正体解明は今世紀の物理学の大きな課題の一つであり、超微粒子原子核乾板は暗黒物質の入射方向を同定でき、その検出のみならず将来暗黒物質望遠鏡としての役割を果たすことも期待できる。並行して原子核乾板を用いた超高分解能<math>\gamma</math>線望遠鏡の開発も行っており、2018年にオーストラリアで行った口径0.4 m<sup>2</sup>の気球フライトのデータ解析を行っている。また世界最大口径10 m<sup>2</sup>の次期望遠鏡の開発を行っており、<math>\gamma</math>線突発現象などの高精度解析も目指している。</p>

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	高エネルギー素粒子物理学 (N)	<p>ヒッグス粒子が発見され、標準模型を超える新しい素粒子現象の発見が期待されている。新しい現象の発見により、ダークマターの正体、素粒子の質量や世代構造の起源、真空や時空構造の理解、力の大統一など、現代素粒子物理学の課題の多くに迫る事ができる。これらの課題に挑戦するために、当研究室は、世界最高エネルギーの陽子陽子衝突型加速器を用いたLHC実験と、世界最高ビーム強度の電子陽電子衝突型加速器を用いたスーパーBファクトリー実験を主導している。LHC実験では、超対称性粒子や余剰次元粒子など未知の素粒子の発見を目指すとともに、ヒッグス粒子の性質の理解、トップクォークの生成・崩壊の精査をする。スーパーBファクトリー実験では、B中間子やタウレプトンの崩壊の中に現れる未知の素粒子が引き起こす新しい現象の探索をする。さらにJ-PARC加速器施設でのミューオン異常磁気能率測定による新物理探索も手がけている。また、これらの実験で用いられる、最先端のテクノロジーを駆使した粒子検出器と電子回路の開発・建設・運転も精力的に行っている。さらには、物理解析には欠かせない高速ネットワークを駆使した大型計算機システムの設計・構築・運転にも力を入れている。</p>
	素粒子物理性 ( $\Phi$ )	<p>低速の中性子やミューオン、原子核を用いた精密測定により素粒子物理学の実験的研究を行っている。実験には世界最高輝度を誇るJ-PARCのパルス中性子やミューオン、カナダTRIUMF研究所のイオンビーム、さらにフランスLaue Langevin研究所、アメリカNISTなど国内外の研究用原子炉を利用する。中性子を用いた研究テーマとしては、中性子崩壊寿命測定、複合核状態における空間・時間反転対称性の破れの増幅効果、中性子原子散乱及び中性子干渉における未知相互作用（短距離重力を通じた余剰次元やダークエネルギー等）の探索、超冷中性子光学や結晶回折を用いた中性子電気双極子能率の探索、中性子反中性子振動を通じたバリオン数非保存過程の探索などがある。必要な高性能中性子デバイス（集光光学系、スピニ制御、ビーム整形、検出器など）を開発する。デバイスのテストなどに活用することができる小型の中性子源自体の開発も同時に行っている。さらに、偏極<math>{}^8\text{Li}</math>原子核の<math>\beta</math>崩壊の角相関から時間反転対称性の破れを探る実験やミューオンの超微細構造に現れる新物理の探索実験などにも参加している。</p>
	宇宙線イメージング ( $\mu$ )	<p>宇宙線中に含まれる素粒子ミューオン (<math>\mu</math>) を利用した巨大構造物内部の非破壊イメージング技術（宇宙線イメージング）の開発とその多分野への展開を進めている。原子核乾板と呼ばれる写真フィルム型の素粒子検出器を用いて、その開発・製造から観測の立案・実施、解析までの全てを行う。2017年にエジプトのクフ王のピラミッド内部に発見した未知の空間の三次元構造の解明を目指した研究開発を進めている。また、マヤ文明のピラミッドやイタリアの地下遺跡探査も進めており、文理融合研究による宇宙線イメージング考古学を開拓している。社会インフラ（河川堤防・盛土などの土木構造物の健全性評価や地下空洞の探査など）の老朽化点検や工業用プラント（原子炉や溶鉱炉）の内部診断技術などをはじめとした宇宙線イメージングの社会実装を目指しており、多分野の研究者との学際研究や企業との共同研究も積極的に進めている。</p>

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	天体物理学 (A)	<p>あらゆる天体の起源である星間物質が放射する電波（ミリ波・サブミリ波）に着目し、138億年にわたる宇宙の歴史の中で生じる恒星や銀河の形成・進化過程の観測的研究を推進している。南米チリに設置されたサブミリ波望遠鏡NANTEN2、ASTE、ALMAをはじめとする国内外の望遠鏡で取得したデータを用い、分子雲内での星形成過程、分子雲の形成過程やそこで起きているさまざまな天体现象、星間物質を大量に持つ活動銀河の深宇宙探査、初代銀河形成期の星形成活動と星間物質の物理を研究している。NANTEN2による超広域分子雲サーベイ(NASCO計画)やそれを支える受信観測システムの開発を進め、銀河系全体にわたる星間物質の性質を探求する。さらに、次世代超大型サブミリ波望遠鏡の実現をめざし、日蘭共同開発の集積型超伝導分光器DESHIMAなどの主力焦点面受信装置の開発と天文観測、電波領域での能動補償光学の実証、データ科学的信号処理法の開発を推進している。</p>
	宇宙物理学（赤外線）(Uir)	<p>近・中間・遠赤外線観測による、銀河系・近傍銀河の星間物質と星形成、銀河進化、太陽系外惑星などを研究課題としている。当研究室は、2006年に打ち上げられた我が国初の赤外線天文衛星「あかり」のために、遠赤外線撮像分光観測装置を開発した。現在は、「あかり」衛星の膨大なデータを駆使して、上記テーマの観測研究をすすめている。また、南アフリカに近赤外線地上望遠鏡IRSFを所有しており、「あかり」天体の詳細な観測も行っている。さらに、次世代の赤外線天文衛星用の冷却光学系や焦点面観測装置の開発に携わるとともに、IRSF用の新型分光器や気球望遠鏡用の観測装置の開発なども行っている。また、将来の地球型系外惑星の分光観測に向けた宇宙干渉計や食分光器の開発を進めている。</p>
	宇宙物理学(X線、重力波)(Uxg)	<p>X線観測・装置開発に加えて、重力波検出実験も行っている。</p> <p>(1) 銀河団やブラックホール、恒星フレアなど、宇宙の高エネルギー天体现象をX線を用いて観測し、高温ガスの大規模な運動や重元素の生成、衝撃波や粒子加速などを研究する。現用のX線観測衛星のデータ解析に加え、次世代のX線分光、偏光、硬X線観測を目指した、先進X線望遠鏡やその周辺技術、検出器などの衛星搭載の装置開発を推進している。2021-23年にはIXPE衛星、XRISM衛星、FOXXI-4ロケットの打ち上げも迫る。また、将来のMeV宇宙観測の装置開発や、自然界の静電場加速器をさぐるための雷ガンマ線研究を進めている。</p> <p>(2) 宇宙誕生直後(<math>10^{-35}</math>秒後ころ)に起こったと考えられているインフレーションの時代に生成された原始重力波を検出し、宇宙がどのように誕生したかを解明することに挑戦する。具体的には、スペース重力波アンテナDECIGOのため、量子ロッキングなどの新しい手法を用いて不確定性原理で規定される標準量子限界を破る技術を開発する。また、地上において原始重力波の検出を可能にするような全く新しい重力波検出方法の開発にも挑戦している。</p>
	複雑性科学実験( $\Sigma_E$ )	<p>宇宙空間内のほとんどの物質は、原子がイオンと電子に乖離した「プラズマ」という状態で存在している。<math>\Sigma_E</math>研では、集団運動の自由度が大きく「非線形現象の宝庫」と言われるプラズマを遠い宇宙に求めるのではなく“手の届く”実験室に実現し、能動的にプラズマに働きかけることによりその本質を探る研究を行う。キーワードは、非平衡、乱流輸送、構造形成、粒子加速・加熱など。磁場閉じ込めプラズマ実験では、<math>10^8 \text{K}/\text{m}</math>という宇宙でも類を見ない極限的な非平衡・不均一状態が定常に保たれている。このプラズマ中の乱流状態を調べることにより非平衡定常システムの理解を深めるというプラズマならではの研究を展開している。他にも、プラズマ中の波動粒子相互作用による粒子加速と異常輸送の研究、光科学導入による先進的な計測器開発、負イオンプラズマの静電応答と大電流負イオンビーム開発研究などを行っている。実験は、核融合科学研究所の大型ヘリカル装置(LHD)、回転乱流実験装置、直線型高密度発生装置(Hyper-I)、中性粒子ビーム試験装置(NBTS)など、様々な規模の実験装置を使って物理的理解を深める研究を行っている。</p>

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	固体磁気共鳴(I)	巨視的な量子状態をミクロに観測することで、物性を支配する普遍的な物理法則の解明を目指す。電子の運動を原子スケールで観測する手法である核磁気共鳴(NMR)によって、電子のわずかな対称性の破れを高感度に検出し、量子スピン液体や新奇な超伝導・超流動などの新しい凝縮現象を解明していく。また、超高圧、超低温、光検出磁気共鳴といった最先端の技術開発により研究を進める。これらの研究は、将来新しい高温超伝導体の設計、従来の性能を凌駕する量子コンピュータやMRI(磁気共鳴画像装置)のコア技術へと進展する可能性を持つ。
	ナノ磁性・スピントリック性(J)	ナノスケールで顕在化する新規磁性・スピントリック性の解明と物理学的新概念の創出を目指した研究を推進している。最先端成膜・微細加工技術を駆使することで、新現象の発見の舞台を自らで人工的に設計・創製し、従来アプローチすることが困難であったような領域、特に、電子系・フォノン系・スピントリック性が強く結合したミクロな界面状態に関連する新領域を開拓する。最近の研究テーマには、(1) マルチフェロイクスと交差相関、(2) 準粒子の伝播とトンネル現象、(3) マグノン-フォノン結合と熱輸送、(4) スピントリック性と磁気秩序との相関、(5) 磁性と超伝導の相関、等がある。
	機能性物質物性(V)	面白くて役に立つ新物質を設計・合成し、その物質の持つ機能を測定・理解することを研究目的とする。機能としては、物質の電気特性(電気伝導率、誘電率、熱起電力、非線形伝導など)に重点を置き、磁気的性質や構造物性を組み合わせることによって、その物質を総合的に理解することを目指す。現在は、(1) 室温付近で巨大応答を示す酸化物、(2) 热と電気エネルギーを相互変換できる新物質、(3) 相互作用が競合することによって生じる新現象(4) 珍しい構造から生じる新しい電子相、の4テーマに興味がある。生物物理学や物理化学の一部の研究室と共同研究できる。
	応答物性(Y)	物質に対して電場・磁場・圧力などの「入力」を加えると、分極・磁化・歪みなどの様々な「出力」が生じる。この「入力」と「出力」をつなぐ「応答」物性は、物質中に潜むからくりを明らかにする重要な探針となるだけでなく、私たちの生活をより豊かなものにする有益な道具立てにもなり得る。我々の研究室では、結晶・準結晶・アモルファスなどの多様な物質系を対象とし、構造と物性の相関を手掛かりとして、特異的な「応答」物性を示す新奇な物質の設計と創出に取り組む。現在は、巨大な分極応答を示す不均一系酸化物誘電体や光照射によって誘電率が変化するワイドギャップ酸化物、さらに新奇な電子相関や磁気秩序を示す準結晶の研究を進めている。
	生体分子動態機能(D)	タンパク質や核酸などの生体高分子は、構造変換や自己組織化、周囲の分子との結合や解離といった様々な動的過程を通じて独自の機能を発揮し、その階層的集積と連鎖が、細胞、組織を介して個体の生命活動として結実している。生命を理解するためには、その素過程、すなわち個々の生体高分子の構造とその時間発展、周囲の分子との動的相互作用などのダイナミクスを高精度に計測し、分子が働く作動原理を明らかにすることが重要である。我々の研究室では、溶液中環境下で高い時空間分解能で試料を可視化できる高速原子間力顕微鏡技術をベースに、物性マッピングが可能な新規機能の開発や他の先端一分子計測手法との複合化を進め、動態と機能が密接に関連した様々なタンパク質の機能発現機構を解明する。また、X線回折実験などの構造解析法を駆使して、生体分子の高次構造構築原理の解明も行っている

領域名	研究分野	主要内容
	光生体エネルギー (G)	太陽光エネルギーによって生命活動のエネルギーを創り出す光合成は、地球最大の生体エネルギー変換系であり、酸素呼吸型生命との炭素・酸素循環を通して地球環境を維持している。40億年にわたる地球と生命の共進化の主役であった、この光エネルギー変換系は、蛋白質と色素・金属によって精巧に構築された生体ナノシステムであり、高い量子効率と環境に応じた様々な制御機構を持つ。我々の研究室では、光合成における励起エネルギー・電子・プロトン移動の動的メカニズムを原子・分子レベルで明らかにし、光合成生命の進化過程を考究する。そのため、赤外分光を用いて巨大蛋白質複合体中の個々の分子振動を検出し、電子スピニン共鳴を用いて電子の動きを捉える。特に、光合成研究の最大の謎である、水分解による酸素発生の仕組みの解明に挑戦する。
	細胞情報生物物理 (K)	生命現象は、様々な時空間スケールでの情報伝達、情報処理を伴う。生命現象にみられる情報変換の機構や過程を研究する。テーマの一つは、蛋白質のフォールディングや複合体形成機構の研究である。フォールディングは、ポリペプチド鎖が、特異的な天然立体構造に変換される過程であり、さらに複数の蛋白質が複合体を形成することによって機能を発揮するものもある。独自に開発した高速反応測定法や分光学的手法を用いてその物理学的機構を解明し、分子レベルでの生命現象の理解を目指す。もうひとつのテーマは、細胞内、細胞間での情報伝達過程の解析である。細胞内での生体分子などの動きと反応をイメージングや電気生理学的手法を用いて測定し、その動態と変化の機構を解明する。
物理科学	【宇宙地球環境研究所】 大気圏環境変動 (AM)	我々の生活に密接に関連する地球大気環境が研究の対象で、オゾン層破壊や地球温暖化のような地球規模の環境変化や地域的な環境汚染などが起きるメカニズムを解明し、環境問題の解決に寄与することを目的として以下のようないくつかの研究を行っている。 a) 電波(ミリ波・サブミリ波)・赤外線などの最新技術を使用して、大気中の微量気体成分を高感度で測定する新しい計測装置の開発を行う。 b) 大気中の微量気体成分やエアロゾルの観測を行い、オゾン層破壊や地球温暖化に関連する物質の変動を調べ、その要因と大気環境への影響を明らかにする。 c) 太陽活動に伴い、地球の極域に降り注ぐ高エネルギー粒子が大気環境に与える影響を南極昭和基地や北欧での観測をもとに明らかにする。 d) 地球以外の惑星の大気について電波望遠鏡等の地上からの観測装置で調べ、地球大気との比較等を通してその特徴を明らかにする。

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	宇宙空間物理学観測 (SS <sub>E</sub> )	<p>地球の超高層大気から近傍の宇宙空間まで広がる領域はジオスペースと呼ばれ、国際宇宙ステーションや各種実用・科学人工衛星に代表される様々な宇宙機が飛翔している。現代社会において必要不可欠な社会基盤が展開するジオスペースでは、太陽コロナから吹き付ける太陽風プラズマと惑星間空間磁場、地球固有磁場と電磁気圏プラズマ、下層大気からの力学的エネルギーと物質輸送が複雑に作用しあうことで、地球極域にはオーロラが出現し、静止軌道付近では宇宙嵐と呼ばれる大規模変動が引き起こされている。電磁気圏プラズマに代表される宇宙プラズマと惑星磁場、中性・電離大気の相互作用は、太陽系内のみならず遠方宇宙でも基礎的かつ普遍的な素過程である。従って、地球近傍の宇宙空間・超高層大気で起きている諸物理機構・変動現象を解明することは、宇宙開発に対する社会貢献だけでなく、宇宙に関する基礎的・普遍的科学知見の獲得を意味する。本研究グループでは、最先端の科学観測機器を独自に開発し、海外・国内での地上フィールド観測と探査機を用いた宇宙空間での直接観測を両輪とした観測的・実験的研究を行い、この領域における物理素過程と変動現象を解明していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 北欧において、大型のレーダー装置を含む各種レーダー、ナトリウム温度・風速ライダー、ファブリペロー干渉計、オーロライメジャなどを用いた国際協力による拠点観測を実施。</li> <li>b) 北極圏から日本、赤道域にわたる広い範囲で、オーロラ・大気光の分光・電波機器群による世界に類を見ない国際ネットワーク観測を展開。</li> <li>c) 宇宙空間・惑星大気を満たすプラズマ・中性粒子を計測するため、地球・惑星探査機、観測ロケットに搭載する分析器を研究・開発し、国内・国際協力を基盤とする探査・観測計画を提案・推進。</li> </ul>
	太陽宇宙環境物理学 (SS <sub>T</sub> )	<p>太陽宇宙環境システムの総合研究を、理論・シミュレーション・衛星及び地上観測データの解析を駆使することによって多角的に実施している。我々が生きる星“地球”とその周辺の宇宙空間（ジオスペース）は母なる星“太陽”と強くつながり、一つのシステムを作っている。このため、地球環境は太陽と宇宙から絶えず影響を受け続けている。SS<sub>T</sub>研は、太陽と地球が織りなすこの広大なシステムの謎を学際的に探ることができる世界でも数少ない研究室である。研究領域は、太陽ダイナモ、フレア爆発、コロナ質量放出、太陽風、磁気嵐、オーロラ嵐、雲物理、比較惑星科学まで多岐に渡る。宇宙天体プラズマで起きる非線形非平衡ダイナミクスに関する理論シミュレーション研究を本格的に行うこともできる。GPSや衛星通信などにより宇宙利用が人々の生活を支える現代社会では、太陽宇宙環境の変動を予測する宇宙天気予報の重要性が高まりつつある。SS<sub>T</sub>研では太陽フレア爆発や放射線帯の変動、宇宙嵐（ジオスペース嵐）などの予測を目指した先進的な宇宙天気研究を行っている。また、太陽黒点活動と長期的な気候変動の関係を解明する宇宙気候研究を進めることもできる。基礎から応用まで多岐にわたる研究テーマの有機的な融合を通して教育と研究を実施している。</p>

領域名	研究分野	主要内容
物理科学	宇宙線物理学 (CR)  太陽圏プラズマ物理学 (SW)	<p>宇宙線は宇宙から飛来する高エネルギー素粒子であり、宇宙での高エネルギー現象や未知の素粒子についての情報をもたらす。宇宙線観測による宇宙線加速や伝播機構の解明、宇宙線による素粒子物理の研究、宇宙線と太陽地球環境との相互作用の研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a) 太陽・銀河宇宙線観測による宇宙線加速機構の研究。フェルミ衛星、CTA計画による<math>\gamma</math>線観測や、太陽中性子など太陽宇宙線の観測から、宇宙での粒子加速機構を解明する。</li> <li>b) 宇宙線による素粒子物理の研究。スーパーカミオカンデでのニュートリノ観測やXENON実験での暗黒物質WIMPの探索、またLHCでの超前方測定LHCf実験による超高エネルギー宇宙線反応の研究を行う。</li> <li>c) 宇宙線と太陽地球環境との相互作用。年輪中炭素14濃度測定から過去の太陽活動周期の解明を行うと共に、宇宙線変動と地球環境との相関を研究する。</li> </ul>
		<p>100万度を超す高温の太陽コロナは、毎秒300~800キロメートルの超音速の風、“太陽風”となって惑星間空間へ流れ出し、恒星間ガスの中に太陽圏と呼ばれる巨大な空間を作っている。太陽風は太陽活動に伴って目まぐるしく変動する。時には太陽面爆発などに伴って膨大な量のプラズマが一気に噴出する現象(コロナ質量放出現象、CME)が発生し、この影響が衝撃波となって惑星間空間を駆け抜けてゆくことがある。このような太陽風の変動は、地球周辺の宇宙環境や超高層大気に大きな影響を与え、さらには人工衛星や無線通信など社会基盤に障害をもたらすため、その物理過程の解明と現象の予測が重要な課題となっている。宇宙環境変動の予測のために不可欠な太陽風・CMEの発生機構、太陽圏の全体構造や太陽活動に伴う変動に関する理解は未だ不完全であり、一層の研究が必要とされている。SWでは、これらの未解明の問題を世界的にもユニークな方法を用いて解明しようとしている。その方法とは、天体からの電波が太陽風により散乱される現象(惑星間空間シンチレーション、IPS)を用いるものである。このためSWでは、IPSを観測する専用の大型電波望遠鏡群を開発している。IPS観測からは、探査機が観測できない太陽風の三次元構造を効率よく調べることができる。最近では電波望遠鏡の高感度を活かしてパルサーなど様々な天体電波源の観測を行っている。このように独自の観測データに基づいた研究ができるのが、SW研究室の特色です。</p> <p>詳しくは、<a href="https://stsw1.isee.nagoya-u.ac.jp/">https://stsw1.isee.nagoya-u.ac.jp/</a> をご覧下さい。</p>

領域名	研究分野	主要内容
物質・生命化学	有機・生物化学 有機化学研究室	世の中の問題を解決するような画期的な機能をもつ分子や構造的に美しい分子を創製する研究を行っている。例えば、ナノカーボンを構造的に純粋な分子として自在に合成・活用・理解することを目指し、合成化学や触媒化学を基盤とした「分子ナノカーボン科学」という新分野を開拓している。また、超効率的な分子合成を実現するための新反応や新触媒を開発している。さらに我々が中心となって設立したトランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）を舞台に、合成化学と植物科学や時間生物学の融合研究領域を生み出している。
	機能有機化学研究室	ホウ素やケイ素をはじめとする一連の典型元素に注目し、個々の元素の特性を巧みに活かした分子設計と、有機金属化学的手法を用いた新しいタイプの反応開拓による効率的合成法の確立により、真に優れた光機能性・電子機能性有機化合物の創製研究をすすめている。この典型元素化学を基盤とした新物質合成から、有機エレクトロニクスやバイオイメージングへの展開を目指す。
	特別研究室	(1)触媒・反応剤や新しいタイプの反応などの研究に基づく効果的合成法の創案(2)構造的に興味ある化合物の合成(3)重要化合物の真に効率的な合成(4)化学合成による有用な物性や新機能をもつ物質の発見と創出、および(5)生物的現象および生理活性の分子レベルにおける解明における融合研究(6)持続可能社会の実現に向けたCO <sub>2</sub> と水を用いる人工光合成における融合学際研究に焦点をおいて研究を行っている。
	生物有機化学研究室	当研究室では主に核酸を研究対象にして創薬分子および機能性分子の設計原理を有機化学と分子生物学の両観点から研究している。具体的には核酸誘導体を合成し、それらの分子を導入した創薬技術を開発する。例えば、mRNA医薬品、mRNAワクチン、ゲノム編集医療、抗ウイルス薬、抗ガン薬、RNA干渉法、アンチセンス核酸などがキーワードとして挙げられる。有機化学によるこれら分子の合成と分子生物学による機能評価は両分野に精通している研究室ならではの特徴である。これらの分子は生命科学における基礎研究やケミカルバイオロジー研究にも活用できる。遺伝子の世纪と言われる21世紀において核酸研究の重要性は日々増しており、当研究室ではこの分野に基礎と応用の2つの切り口から研究を行っている。
	有機金属・材料化学グループ	典型元素化合物と有機金属化合物の有するそれぞれの特性を活用することで、従来にない新しい形式の有機合成反応の開発を行なっている。特に硫黄やホウ素などを含む有機化合物を反応剤として、多様な有機分子群の自在構築を目指し研究を展開している。また独自の配位子設計によって、安定な金属ナノ物質（金ナノ粒子や金ナノクラスターなど）の合成やその触媒機能の開拓を行なっている。さらに関発した反応や化合物を活用することで、トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）内で動植物学者との融合研究を推進している。

領域名	研究分野	主要内容
物質・生命化学	物理化学 光物理化学研究室	コヒーレントな光のもつ性質を駆使し、先端的分光手法の開拓と新しい超高速現象の発見、化学反応過程の制御に関する研究を行い、物質科学における新たな展開を目指す。特に(1)強レーザーパルスによる超高速分子ダイナミクスの可視化、(2)アト秒領域の超高速分光法の開拓、(3)レーザー反応場による反応コントロール、(4)自由電子レーザー場における非線形光学過程の解明と応用、を推進する。
	物性化学研究	本研究室では、「物質合成」「基礎物性探索」「デバイス展開」研究を縦断的に行う。特徴的なトポロジーをもつ有機伝導体や磁性体を対象に顕著な電子-格子相互作用や電子-電子相互作用を起点とするデバイス特性を追求し、新しい有機エレクトロニクスやエネルギーデバイスを追求している。その一方、トランジスターや光電セル、電気化学セル構造をつくり込むことによって、新たな分子物性を開拓する。物性科学研究と固体電気化学研究を融合し、基礎と応用においてwin-winの成果を目指す。
	量子化学研究室	理論及びコンピュータの先端技術を駆使して、化学反応や結合のメカニズムを理解し予測などを行う研究に取り組んでいる。近年、量子力学の方程式を高速計算できる技術（「量子化学計算」）が現れ、化学反応や機能性を計算機上で精密にシミュレートすることが実現されている。本研究室では、先端的な量子化学計算法を駆使した理論研究を進める。挑戦的な化学電子論の問題に向けて、より高い適応性をもつ先進的な理論、アルゴリズム、高性能ソフトウェアの開発研究を行う。実験で提示された問題や未知なる化学や生物化学の謎の解明に取り組み、その原理を導き出すことを目指す。また、計算機を用いた創薬シミュレーションやその手法開発にも取り組んでいる。また、情報科学などの計算技術を取り入れる研究も推し進めている。
	物理化学グループ	物質中にある電子は時に驚くべき性質を示し、そのインパクトは、基礎科学はもちろんのこと、時には応用を通して社会にも及びます。我々は、”低次元”・”ナノサイズ”というキーワードのもと、物質創製・デバイス作製・物性探索を縦断的に行うことを通して、「物質の新機能を引き出す」・「驚くべき機能をもつ新物質を生み出す」ことを目的に研究を進めています。化学や物理といった枠にとらわれず、自由な発想で次世代のナノ科学を切り開くことを目指しています。
	無機・分析化学 分子組織化学研究室	生体システムの中に見られる大小様々なビルディングブロック分子は、化学的な多様性があり、また、近年の合成化学やバイオテクノロジーのめざましい進展により、これらの分子への様々な化学修飾や、目的にあった配列やサイズの生体高分子の合成が可能になってきた。そこで、生体に見られる階層的な化学システムから発想を得ることにより、金属錯体などを機能素子とした新しい物質の構築原理の創製、それに伴う機能の創出を目指している。またこれらを、ナノ（分子）レベルの変化とマクロレベルの現象論が双方向に制御できる化学システムの構築へと展開する。

領域名	研究分野	主要内容
	無機化学研究室	様々な化学合成反応において、触媒は極めて重要な働きを担っており、新しい触媒の創製は、物質合成のキーワードである。金属錯体、金属ナノ粒子、酸化物、酵素などの様々な無機物質群を用いた新しい触媒創製を行う。また、先端計測・分光法を用いて、触媒の構造や働きを分子の視点で理解することを目指す。無機化学、物質科学、触媒化学、化学反応学、分光計測等の幅広い分野の視点から、触媒や物質変換を理解するための研究を展開する。
	生物無機化学研究室	天然に存在する蛋白質や酵素は、本来の目的とする機能や触媒活性を持つが、蛋白質を構成するアミノ酸を置換する変異導入に代表される蛋白質機能改変や化学的な蛋白質修飾によって、本来とは異なる機能の付与や反応選択性の改変が可能であり、一般的に広く行われる手法として確立されつつある。本研究室では、化学の視点で金属蛋白質や金属酵素を眺め、それらの機能を目的に合わせて改変する新規手法の開発を目指して研究を進めている。たとえば、金属酵素の基質選択性や反応の位置・立体選択性を、変異導入を施すことなしに、基質類似分子を取り込ませて基質選択性を変換する手法を開発した。基質類似分子を用いる手法は、これまでに報告例の無い新規手法であるだけでなく、反応によっては、一般的な変異導入法よりも高い効果を示す。蛋白質の結晶構造解析やコンピューターシュミレーションによる構造予測や低分子化合物の結合解析などを駆使して、化学の視点から新規蛋白質機能改変手法の開発に挑む。また、人工核酸と蛋白質の複合体の作成など、核酸を用いる機能性分子の開発も進めている。
物質・生命化学		

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	分子神経生物学	<p>動物は、常に変化する環境を的確に察知し適切な行動を選ぶことで、自らの生存の確保や子孫の維持を行う。当研究室は、その行動の基盤となる神経回路動態の分子機構・制御機構の解明を目的として研究を進めている。動物の精巧に出来た応答行動のメカニズムの解明には神経系の網羅的理解が必須である。しかし、動物が高等になるほどニューロンの数は増加し、ヒトの脳に至っては約1000億個の神経細胞によって構築されているため、その神経回路の配線の組み合わせは天文学的な数値になる。個々の神経細胞（ニューロン）の物理化学的性質は、動物の進化を通じてほとんど変化していないため、我々は、特定の行動に関わるシンプルな神経回路の機能を網羅的に解明することによって、複雑な神経回路機能の基本原理を明らかにしたいと考えている。具体的には、全神経回路網が同定されている<i>C. elegans</i> (<i>Caenorhabditis elegans</i>)と呼ばれる線虫を実験モデル系として、特定の行動を、感覚、環境情報の記憶・学習、そして応答行動として出力するまでのすべての過程に関して、分子&lt;細胞&lt;神経回路&lt;個体の4つの階層レベルを統合して網羅的に理解することを目指している。</p> <p><i>C. elegans</i>の神経系はわずか302個のニューロンから成り立っているが、水溶性物質（味）、揮発性物質（匂い）、酸素などの化学刺激や、接触や温度などの物理刺激に対して応答することができる。特に、温度に対する応答行動（温度走性）は非常に高度な神経の可塑性を伴う。これまでに、我々は温度走性を制御する神経回路を同定し、その形成や機能に関わる分子を明らかにしてきた。現在、温度情報の記憶や学習といった、より高度な神経活動を制御する分子および神経回路の同定を行っている。さらに、ニューロン同士を接続するシナプス部位に着目し、神経回路内で神経情報をシナプスを介してどのように伝達されるのか、ニューロン内でシナプスがどうやって適切な位置に局在するのかに関して解析しており、それら個々のメカニズムがどの様に行動動態へ影響するのかを明らかにしつつある。研究手法としては、確立された分子遺伝学に加え、細胞生理学やライブイメージング、オプトジェネティクス、画像解析、自動顕微鏡制御など様々なアプローチを積極的に取り入れて研究を進めている。また、これらの解析から明らかにされたメカニズムについて、数理モデルや計算機シミュレーションを用いて検証することも進めている。生物学だけでなく、情報科学や物理学を専門に学んだ場合でも、神経科学に興味があれば応募を歓迎する。</p>
	脳回路構造学	<p>音楽や言語など、音は私たちの生活に様々な彩りを与える。一方で自分の生存とは無関係な音は、背景音として無視することができる。このように、動物の脳は、感覚器によって受容された音がその個体にとって意味を持つか否かを瞬時に判別できるのである。しかし、どのような神経回路がどのように動作してそのような判断を導いているのか、その神経機構には多くの謎が残されている。私たちは、小さな脳を持ち、神経機能を制御できる実験ツールが整備されたモデル生物であるショウジョウバエを主に用いて、個体にとって重要な音とそれ以外の雑音を弁別する神経回路基盤の解明に取り組んでいる。ショウジョウバエの雄は求愛時に、種に固有の音パターンを持つ「求愛歌」と呼ばれる羽音を奏でる。このような特徴的な音がショウジョウバエの脳でどのようにして解読されるのかを理解する目的で、私たちは現在、神経解剖学、生理学、行動実験、数理科学を組み合わせた解析を進めている。また、求愛行動を制御する神経機構一般や、その進化についても研究を開始し、近縁種間での比較や、ショウジョウバエと同じく聴覚を用いて配偶行動を行う蚊を用いた解析も行なっている。このような研究から、私たち哺乳類にも共通する、脳の動作原理を解明することを目指す。</p>

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	細胞内ダイナミクス	細胞内のダイナミックな現象の理解を目標としている研究室である。現在最も注目しているのは微小管細胞骨格である。微小管がどのようにして生成され、動的性質を獲得し、さらに、細胞分裂装置・スピンドルなどの高次構造を形成するのかを解明したいと思っている。そのために、動物培養細胞、酵母およびヒメツリガネゴケを材料に、高解像度の生細胞イメージング、生化学および遺伝学的解析を組み合わせて、分裂制御タンパク質の機能解析を行っている。また、細胞間接着の解離機構や細胞自死の細胞断片化機構などについて生物毒素等を用いてその分子機構も研究している。
	細胞間シグナル	分泌型ペプチドをはじめとする細胞間シグナル分子と、細胞膜貫通型の受容体タンパク質を介した細胞間情報伝達機構は、多細胞生物のかたちづくりを支える重要なしくみのひとつである。特定の受容体に特異的に結合するシグナル分子はリガンドと呼ばれるが、複雑な細胞内情報伝達カスケードの最上位に位置するリガンド-受容体ペアを見つけ出すことは、生物学における大きな課題である。また、植物特有の管状組織である篩管では、非分泌型ペプチドが長距離移行して情報を伝達することも明らかになっている。さらに細胞間に存在する多数の糖ペプチドも植物の成長に多面的に関わる。当研究グループでは、こうした新しい細胞間シグナルの探索やその作用機構の解明を基軸として、植物のかたちづくりや環境適応のしくみの解明に取り組んでいる。
	生殖生物学	生き物の性は遺伝子や環境などさまざまな要因によって決まる。また性を転換させてしまう生き物もいる。このような性決定の多様性や性転換の背後には、雌か雄かのどちらか一方になることを保障する「性のコアメカニズム」が存在し、幹細胞の制御とも関連して機能する。このメカニズムは「卵巣や精巣の大きさ」や「配偶子形成のタイミング」など、生殖の他の現象とも連動して多様な生殖様式をもたらす原因となることもわかり始めた。メダカは遺伝的に性が決まる動物でありながら環境による性決定や性転換が解析でき、生殖のさまざまな現象の解析も可能である。研究室では、トランジェニック個体や突然変異体作製、キメラ解析、網羅的遺伝子発現解析、イメージング等の技術を駆使し、性や生殖の多様性をもたらす性のコアメカニズムが幹細胞制御とどのように連動して性を決めるのか、どのように他の生殖現象をも制御するのか、その分子機構の解明を行う。またそこから得られた結果を他の生き物を用いて検証し、生き物がどのように分子機構を変容させ豊かな性や生殖の現象を示すのかを理解することを目指す。
	発生成長制御学	生物の発生と成長はさまざまなレベルの制御システムにより調節されている。私たちは、その調節のしくみの普遍性と多様性の理解をめざし、多様な生物を用い以下の広範な研究に取り組んでいる。 ①モデル植物シロイヌナズナとヒメツリガネゴケを用いた、植物の形態形成・細胞増殖に関与するオルガネラ機能の分子生物学・細胞生物学的研究。 ②ショウジョウバエを実験動物として用いた、生体防御、発生における形態形成、細胞分化などの制御メカニズムに関する研究。 ③ショウジョウバエを用いたミトコンドリアの特殊化が発生過程において細胞の分化や機能を調節する機構の遺伝学的研究。

領域名	研究分野	主要内容
	細胞制御学	細胞の分裂・分化過程において、細胞の形態的・力学的表現型（形状・剛性・張力・運動性など）を規定する重要なシステムが細胞骨格系である。細胞骨格蛋白質の代表格であるチューブリンやアクチンが細胞質内に連続的なネットワークを形成するのに対し、セプチンは不連続なクラスターとして散在する点でユニークであり、解明すべき謎が多く残されている。当グループはこれまでに、セプチン細胞骨格系が細胞分裂以外にも神経突起形成やシナプス伝達などを介して個体レベルの形質（行動）や精神・神経疾患に関与することを示してきた。このように、細胞分裂・分化関連因子を欠損（または過剰発現）する遺伝子改変マウスや初代培養神経細胞の解析を通じて、ニューロン・グリア間相互作用、記憶・学習など高次機能、神経変性のメカニズムの謎を解明していくことを研究の柱としている。
	分子修飾制御学	私たちの体の中でタンパク質は必要なときに合成され、その役目を終えると分解されています。従来タンパク質はその合成過程で厳密にコントロールされ、分解過程は細胞内で不要になったものの単なるゴミ処理機構と考えられていました。しかしながら近年の研究により、実はタンパク質分解もさまざまな生体機能を積極的にコントロールする制御系であることが明らかになり、非常に関心を集めています。私たちは、この中でもユビキチン-プロテアソーム系を介したタンパク質分解機構に注目し研究を進めています。特に最近では、ユビキチン-プロテアソーム系で分解されるタンパク質を新たに次々と見つけており、その分解の仕組みと生理的意義の解明を目指して研究を行っています。その結果、細胞内のオルガネラの動態、代謝、飢餓応答、ストレス耐性をはじめとする様々な過程においてユビキチン-プロテアソーム系が果たす新しい働きが見えてきています。研究材料は、真核細胞のモデルとして出芽酵母を主に用いており、分子レベルおよび細胞レベルでの解析を中心として研究を行っています。
生命理学		細胞膜は脂質二重層構造を基本としますが、その内層と外層で脂質の組成や役割が大きく異なります。その様な非対称性は細胞の生存に必須であり、その異常は多くの疾患とも関わっています。最近、脂質非対称性の維持・調節にユビキチン修飾が深く関わることが明らかになりました。そこで、ユビキチン修飾を通した生体膜の恒常性維持機構にも注目して研究しています。 さらに私達はこのユビキチン-プロテアソーム系を利用することにより人為的にタンパク質の分解を制御する系の開発も行っています。この系は植物におけるオーキシン依存的なユビキチン化システムを植物以外の生物種に導入したもので、オーキシン添加によって標的とするタンパク質を速やかに分解・除去することができます。私達はこの系を用いることによって、様々な生命現象（DNA複製、染色体分配、核内構造など）の理解に努めるとともに、様々な生命現象を人為的に制御することができないかという視点からも研究を進めています。

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	超分子構造学	<p>個々の遺伝子が作り出す蛋白質が互いに複雑に相互作用しながら生理機能を果たす仕組みを解き明かすことがポストゲノム研究の一つの大きな柱であり、蛋白質複合体の構造解析は特別に重要な意義をもっている。私たちは細胞内輸送、転写制御、細胞周期制御、細胞骨格など、細胞生物学・生理学において重要な位置を占める研究課題を取り上げ、特に中心的役割を果たす蛋白質複合体の原子レベルの構造解析を重視し、さらに構造をベースにした機能解析による検証を行い、分子メカニズムを厳密に解き明かすことを目指している。X線結晶解析、クライオ電子顕微鏡やNMRなど、多彩な手法を相補的に駆使した最先端の構造生物学研究を推進している。</p> <p>また、生体膜の動的形態分子制御機構の解明にも取り組んでいる。リポソーム（人工膜小胞）は脂質二重膜の最も単純化したモデルで、多くの生体膜の研究に用いられている。特に直径が <math>1 \mu\text{m}</math> を超える巨大リポソームは、光学顕微鏡を使い直接リアルタイムで観察することができる。この巨大リポソームを用いて、膜の裏打ち構造を構成する蛋白質、膜作用性ペプチド、生体由来の両親媒性化合物などとの相互作用によって引き起こされる膜のダイナミックスを捉え、その仕組みを明らかにすることを通じて、生体膜の動的な形態制御の分子機構の解明を目指している。さらに脂質膜の表面での、蛋白質やペプチドの分布や動態を決める機構についても研究を進めている。</p>
	異分野融合生物学	<p>最先端計測機器の登場は、今後の生命科学分野の研究スタイルを大きく変貌させることになる。生命を構成する最小単位である1細胞レベルで生命現象を理解する試みが始まっている一方で、これらのアプローチには多種多様でかつ膨大なデータを伴う。そして、巨大データが持つ情報を100%抽出し、利用することは極めて困難である。なお、従来の手法で取得される臨床・実験データでさえ内包する情報を不完全にしか利用できていない場合もある。生命現象は本質的に高次元で非線形であることを考えれば、数理科学、情報学、物理学など、異なる分野で開発されてきた理論や蓄積してきた知見を利活用することで、データを制することが期待できる。つまり、適切な分野を融合することで、定量的な観点からメカニズムを追求する次世代の生命科学分野を創出できる。私達の研究の“心臓”となっている武器は「数理モデルとコンピューターシミュレーション」であり、異分野のクロスオーバーを前提とした生物学研究を進めている。そのために、これらの武器をもって臨床や実験研究の現場に入り込み、データ取得前段階から研究デザインに限界までコミットする等、人 ⇌ 人あるいはグループ ⇌ グループの有機的連携を重視した研究スタイルを貫いてきた。</p> <p>究極の目標は、生命の発生から死に至るまでの現象を定量的に理解すること、であり、特に、病原体感染や遺伝子異常により誘導される恒常性の変容や破綻が引き起こす表現型とその制御・操作に関連した研究に注力している。さらに、生体内では、細胞内の遺伝子発現の制御からそれぞれのタンパク質が機能し、細胞としての特徴を生み出す。そして、細胞間で相互作用し合いながらシステムとして機能する細胞群となり、生体内の組織を維持する。私たちは、これらの過程の時間変化を統合的に記述するための研究も精力的に推進している。この様に、様々な生命現象のエンジンになっている『増殖・分化・感染・変異・進化・適応する要素』が組み合わさって創発するシステムの定量的分析を可能にするユニークで汎用性の高いアプローチを開発し、個別の生命現象に対する理解を深める国内ではじめての異分野融合生物学の研究拠点である。</p>

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	遺伝学	多細胞生物では、地球上の生物と同様に、細胞同士が互いに協調したり競合します。そして、そのような細胞間のコミュニケーションが、特定の形・大きさの組織や器官を構築し、またその恒常性を維持する上で重要な役割を果たしていることが近年分かってきました。さらに細胞間コミュニケーションは、正常な状態の破綻によって引き起こされる「がんの発生や進展」も制御することが分かっています。当研究室では、細胞間コミュニケーションに着目した個体レベルでの解析を行う上で優れたモデル系であるショウジョウバエを用い、細胞間コミュニケーションを介して(1)発生過程において特定の形・大きさの組織が構築される仕組み、(2)恒常性が維持される仕組み、(3)がんの発生や進展が引き起こされる仕組みを解析しています。一方で、個体レベルでの恒常性を維持する仕組みも解析します。蚊の食物である花の蜜と血液は、摂取されるとそれぞれが異なる器官へと到達します。食物の種類に応じたこのようなシステムが、どのようにして細胞集団の恒常性を維持しながら実行されているのか解析を進めています。また、蚊の食物が体内で選別される生理的意義について理解することを目指します。これらの研究を通して、多細胞生物の形づくりやその恒常性維持、そして、それらを支える細胞集団の動作原理の理解を目指します。
	生体機序論	生物は生体内のプログラムあるいは外部からの刺激により、細胞および個体レベルでその機能や形態を自在に変化させることで、細胞増殖・分化・発生・再生などのさまざまな生命現象を制御している。本研究分野では、これらの生命現象を制御する分子機序とそのシグナルネットワークについて、線虫および培養細胞を用いた遺伝学および分子生物学的な解析を行っている。線虫をモデルとした研究では、主に神経軸索の形成および神経切断後に起こる軸索の再生について研究を進めている。これまでに、増殖因子・コラーゲン・セロトニン・体内マリファナ等の細胞外シグナルが、切断軸索内のJNK型MAPキナーゼ経路やcAMP経路等を介して軸索再生を制御することを明らかにしてきた。また培養細胞を用いた研究では、パーキンソン病関連因子LRRKによる細胞増殖・細胞内輸送・シリア形成およびオートファジー等の制御に着目し、それに関わる因子の生体内での機能や制御メカニズム、上流および下流のシグナルネットワーク等について解明を進めている。これらの研究を遂行することにより、それぞれの生命現象の制御機構を明らかにすると同時に、将来的な創薬・医療の礎となる成果を得ることを目指している。
	植物生理学	本グループでは、植物における環境応答のシグナル伝達の分子機構について主に研究を進めている。土に根を伸ばし固定的な生活を営む植物は、変転する周囲の環境（光、水分、栄養、温度等）に的確に応答し、成長しなければならない。植物の表皮に存在する気孔は、これらの環境変化に応答して開閉を行うことにより、光合成に必要な二酸化炭素の取り込み、蒸散や酸素の放出など植物と大気間のガス交換を調節している。我々は、このような特徴をもつ気孔辺細胞を環境応答のモデル材料として、青色光による気孔開口反応、植物ホルモン・アブジン酸や二酸化炭素による閉鎖反応のシグナル伝達について、生理・生化学・分子遺伝学的手法、ケミカルジェネティクスを駆使した解析を進めている。また、これらの成果に基づき、気孔開度を人為的に制御する技術開発にも取り組んでいる。さらに、植物細胞の恒常性維持、様々な物質輸送や細胞伸長に関与する細胞膜プロトンポンプ( $H^+$ -ATPase)の活性制御機構についても解析を進めている。加えて、本グループはトランフォーマティブ生命分子研究所(ITbM)にも所属しており、有機合成・化学などの異分野との積極的な融合研究も展開している。

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	細胞生物学	真核生物の多細胞化は、生命が誕生してから現在に至る進化の歴史の中で最も重要なステップの一つとして位置づけられる。この多細胞化に必須だったのが、個々の細胞同士を結び付ける細胞接着機能の獲得である。細胞接着を体構築の基礎とする多細胞生物において、細胞と細胞、あるいは細胞と基質がどのような機構で接着するのかを知ることは、細胞の分化や極性の発現、組織・器官の形成・維持などのより高度な生命現象のメカニズムを解明するためには、きわめて重要である。当研究室では、細胞一細胞間の接着装置アドヘレンスジャンクションと細胞一基質間の接着装置ヘミデスモソームについて、分子および細胞レベルで研究をおこなっている。特に、上皮組織の分化・形成・維持における、これら接着装置とその構成タンパク質の役割について注目し、解析している。
	染色体生物学	あらゆる生物において、ゲノムを次世代に正しく分配・継承することは、細胞の正常な分裂と増殖を支える最も重要な基盤である。真核生物のゲノムは、「染色体」というかたちをとることで、ゲノムの均等な分配を可能にし、染色体構築過程における異常は、染色体の不分離、延いては異数化、癌化、細胞死の原因となる。当研究室では、染色体という構造がいかに構築され、細胞の分裂に際していかに正しく分配されるのか、そのメカニズムを明らかにすること、そして細胞周期を通じて染色体の構造をダイナミックに変化させる分子基盤を明らかにすることを目指している。特にゲノムの複製に伴って確立され、分配に伴って切断される姉妹染色分体間の接着や、分裂期における染色体凝縮に焦点をあて、アフリカツメガエル卵、哺乳動物細胞、昆虫細胞、菌類を用いた多角的な細胞生物学的・生化学的アプローチ、および一分子生物学的アプローチにより、これらの分子メカニズムと進化的保存性を明らかにしていく。さらに染色体の構造変換、染色体機能と遺伝性疾患の関連を明らかにする研究も行っている。
	海洋生物学	臨海実験所は、三重県鳥羽市菅島の海岸に設置されており、豊富な生物資源を研究材料に用いることが可能である。実験所では、3つの研究チームが多様な海洋生物資源を用いて分子から生態までを網羅する研究を展開し、未知の生命現象の解明を目指している。生物多様性・系統進化学チームは海産無脊椎動物の多様性分類、系統に基づいた形態および生態進化の研究を進めている。海洋生化学チームは、海洋無脊椎動物や藻類を対象として、生物と生物の間でやりとりされる分子の探索や生合成機構の解明に取り組んでいる。海洋細胞生物学チームは菅島近海の海藻や菌類を材料に、細胞の成長、増殖、再生機構の解明を目指している。
	多細胞秩序	多細胞生物の個体内では多種多様な多くの細胞が互いに連絡を取り合い協調して活動している。その結果、多細胞の集合体である個体の形が巧みに作られたり、環境の変化に個体として柔軟に対応したりすることができる。私たちの研究室では、それら細胞群の秩序がいかに作られ維持されるのかに興味を持ち、そのために作動する仕組みの解明を目指している。とりわけ、芽生えた場所の変わりゆく環境の中で柔軟に生き抜くための様々な戦略を進化の中で獲得してきた植物を題材に、多細胞秩序のために細胞間で伝達される様々な情報の分子実体の追求や、その情報伝達の仕組みの解明に取り組んでいる。また、それら情報分子群の働きの人為的な改変や、人工化合物を活用して多細胞秩序の新制御点を発掘する試みも行っている。

領域名	研究分野	主要内容
生命理学	植物分子シグナル学	<p>免疫系はホ乳動物を始めとした生物に広く保存されている感染防御応答システムであり、植物は固着の生活を営むが故に、極めて高度に発達した制御機構を保有している。私たちは、主にモデル植物であるシロイスナズナを材料とし、特に植物ホルモンが誘導する免疫応答システムの解明を試みている。免疫系は、UV、高温等の非生物学的ストレスや昆虫等の生物学的ストレス、さらには生長制御系と相互作用することにより最適化されるが、その分子機構の大部分は明らかになっていない。順逆遺伝学的手法に加え、トランスクリプトーム解析、独自に開発したタンパク質合成技術や生化学的アプローチにより重要制御因子を網羅的に同定し、機能解析を進めている。</p> <p>また、上記研究テーマに加え、古細菌等を材料とし、次世代シーケンサーを活用して、ゲノム、トランスクriptーム、リボソームプロファイリング、ChIP解析を行うことで、様々な生命現象を物質(核酸、タンパク質)の変化としてとらえる研究を進めている。</p>
	器官機能学	<p>脊椎動物において、受精卵から複雑な構造と機能を有する器官が形成する過程は、正確に制御されている。私達の研究室では、ゼブラフィッシュやメダカ等の小型魚類を用いて、大きく二つの研究テーマで、脊椎動物の器官形成および機能を制御する分子メカニズムの解析を行っている。一つは、動物の複雑な行動を制御する神経回路に関する研究である。発生過程において、神経組織では前後軸に沿って個々の神経領域が決定され、その領域で神経幹細胞または神経前駆細胞が產生される。ニューロンは、これらの細胞から产生され、細胞移動しながら神経突起を伸長し神経回路を形成する。本研究室では、神経回路のモデルとして、小脳に焦点を当て研究を進めている。小脳神経回路形成の分子メカニズムを理解するとともに、運動学習や恐怖応答学習等の高次機能における小脳神経回路の役割の解明を目指している。もう一つのテーマとして、神経堤細胞の分化機構の解析を行っている。神経堤細胞は、脊椎動物初期胚の背側に形成される幹細胞であるが、色素細胞を含む種々の細胞種に分化しながら移動し、機能を発揮する。神経堤細胞から多様な細胞へ分化過程を制御する遺伝子カスケードの解明を目指している。</p>
	微生物運動	<p>細胞が生きて行くためには、激変する環境に対応するために運動し、応答して生理機能を最大限に発揮する必要がある。この基本的な生命現象を理解するためには、細胞の運動機構や環境応答機構を理解するだけでなく、生理機能に重要な超分子構造(器官)がどのようにして適切な時間・場所に、適切な数だけ形成・配置されることで、そのはたらきを最適化しているのかを知る必要がある。私たちの研究グループでは、「細胞がどのように運動し、環境の変化に応答し、器官形成位置と個数を決定しているのか?」という課題の解明を目標とし、多くの原核生物で運動装置として用いられているべん毛、特にそのモーターに焦点を当てた研究を展開している。</p> <p>べん毛モーターは左右両方向に高速回転し、かつ瞬時に方向転換ができるだけでなく、負荷を感じてエネルギー変換能を調節することができる。さらにこのモーターは、ATPではなく細胞膜を介したイオン駆動力から回転力を生み出す他では例を見ない独自の化学-力学エネルギー変換機構を備えた超分子ナノマシンである。しかし、その作動原理は謎に包まれている。私たちのグループでは、べん毛モーターの作動原理に加えて、どのようにして適切な場所に適切な数だけ形成されるのか、そのメカニズム解明を目指し、分子生物学(変異体解析)・細胞生物学(タンパク質局在、運動能)・生化学(タンパク質精製・活性測定)・構造生物学(X線・電子顕微鏡解析)の手法を用いて研究を進めている。細胞運動は原核生物から高等動物まで保存された現象であり、私たちは扱いが容易で様々な手法を適用できる細菌の利点を最大限に生かした研究を展開して、生命現象の基本原理に迫ろうとしている。</p>

2022年度 名古屋大学大学院理学研究科  
博士前期課程入学志願票

		本学在学者は学生番号を記入			
志 望 域 名		英 字			受 験 番 号 ※
		ふりがな			
		氏 名			
		年 月 日生 (男・女)			
国 稽 (留学生のみ)					
志 望 研 究 分 野	1.	2.	3.	4.	
コード番号					
▲ 物質・生命化学領域志願者	希望する受験方法		1. A入試	2. B入試	3. A入試・B入試両方
	外国语 試 験	TOEIC : Official Score Certificateを 1.出願時に提出 2.試験時に持参 TOEFL : Examinee Score Recordを 1.出願時に提出 2.試験時に持参 3.Official Score ReportをETSから提出			
最 終 学 歴	(国・公・私) 立		大 学	学 部	学 科
			年 月 卒 業 ・ 卒業見込		
大学コード番号			学部コード番号		
勤 務 先 (在職者のみ)					
(ふりがな) 現 住 所	〒				
	電話 ( ) - 携帯 - - E-mailアドレス				
緊 急 時 の 連 絡 先	〒				
	電話 ( ) - 携帯 - -				
(ふりがな) 氏 名				志願者との続柄	

収納証明書 貼付欄

2022年度

名古屋大学大学院理学研究科

博士前期課程志願者

## 写 真 票

志 望 領 域 名	受 驗 番 号
	※
志 望 研究分野	

(ふりがな)  
氏 名 (男・女)

年 月 日 生

**写真貼付欄**

- 写真は  
(縦4.5cm×横3.5cm)  
正面向き半身  
脱帽 3か月以内に撮影したこと。
- 全面糊付のこと

※ 確 認 欄	
1	
2	
3	
4	
5	

切  
り  
離  
さ  
な  
い  
こ  
と

2022年度

名古屋大学大学院理学研究科

博士前期課程志願者

## 受 驗 票

志 望 領 域 名	
受 驗 番 号	※
(ふりがな) 氏 名	
年 月 日 生	

- 本票は常に携帯し、入学の手続きを完了するまで保存すること。
- 本票は試験の際に机上において係員に見えるようにすること。
- 本票は係員の請求があれば何時でも見せること。

-----  
切 ----- り ----- 取 ----- り ----- 線 -----

## 注意

- ※印の欄は記入を要しない。
- 氏名欄の英字は活字体で、姓のみ大文字、後は最初の1字が大文字で残りは小文字で記入すること。  
(例：名古屋 花子 NAGOYA Hanako)
- E-mail アドレス及び携帯電話番号は連絡が付くものを必ず記入すること。特にE-mail アドレスは明瞭に記入すること。不明瞭な場合は入学試験に必要な情報が伝わらない可能性があるので記載事項には十分注意すること。  
・「o (オ一小文字)」、「O (オ一大文字)」と「0 (ゼロ)」、「l (エル小文字)」と「1 (イチ)」、「- (マイナス)」と「\_ (アンダーバー)」が区別できるように記入すること。  
・その他、区別がつきにくい場合は「オ一小文字」「ゼロ」などの読み仮名を付すこと。
- 志望研究分野欄は、要覧 (P 11～P 13) を参照の上、研究分野及びコード番号を記入すること。  
◎物理科学領域志願者は、志望研究分野を第4志望まで順位をつけて記入することができる。連絡先については本要項巻末の「物理科学領域 志望研究分野 連絡先一覧」を参照のこと。  
◎物質・生命化学領域志願者は、志望研究分野を第4志望まで順位をつけて記入すること。また、記入した第1志望の研究分野の教員と願書受付最終日までに連絡をとること。  
連絡先については、本要項巻末の「物質・生命化学領域 志望研究分野 連絡先一覧」を参照のこと。  
◎生命理学領域志願者は、志望研究分野を第3志望まで順位をつけて記入することができる。(第2志望以下が無い場合は記入しなくてもよい。)  
連絡先については、本要項巻末の「生命理学領域 志望研究分野 連絡先一覧」を参照のこと。
- ▲印は、P 8物質・生命化学領域志願者は、希望する受験方法について該当する番号を○で囲むこと。また、物質・生命化学領域B入試選択志願者は、外国语試験について該当する番号を○で囲むこと。
- 各コード（大学及び学部コード）は、本要項巻末の「コード番号一覧表」を参照の上、記入すること。
- 現住所及び通知等の送付先欄は、○○方、○○アパート等正確に記入すること。

受験番号

## 履歴書

年	月	学歴※・職歴 (空白期間がないように記入し、自宅において学習した期間については「自宅学習」として、その期間を記入すること)
		高等学校入学
上記のとおり相違ありません。		
年	月	日
氏名		

※外国における学歴を含む場合は、小学校入学から現在まで空白期間がないように記入すること。

## 物理科学領域 志望研究分野 連絡先一覧

研究室名	担当者	メールアドレス	郵送先
E	棚橋 誠治	tanabash@eken.phys.nagoya-u.ac.jp	A
H	原田 正康	harada.masayasu@nagoya-u.ac.jp	A
Q G	野尻 伸一	nojiri@gravity.phys.nagoya-u.ac.jp	A
P	渡邊 智彦	watanabe.tomohiko@nagoya-u.ac.jp	A
C	杉山 直	naoshi@nagoya-u.ac.jp	A
T a	犬塚修一郎	inutsuka@nagoya-u.ac.jp	A
Ω	竹内 努	takeuchi.tsutomu@g mbox.nagoya-u.ac.jp	A
Σ T	沼波 政倫	nunami.masanori@nifs.ac.jp	B
R	宮崎 州正	miyazaki@r.phys.nagoya-u.ac.jp	A
S c	紺谷 浩	kon@slab.phys.nagoya-u.ac.jp	A
S t	河野 浩	kohno@st.phys.nagoya-u.ac.jp	A
B	TAMA Florence	florence.tama@nagoya-u.ac.jp	A
F	中村 光廣	nakamura@flab.phys.nagoya-u.ac.jp	A
N	飯嶋 徹	iijima@hepl.phys.nagoya-u.ac.jp	A
Φ	清水 裕彦	hirohiko.shimizu@nagoya-u.ac.jp	A
μ	森島 邦博	morishima@flab.phys.nagoya-u.ac.jp	A
A	田村 陽一	ytamura@nagoya-u.ac.jp	A
U ir	金田 英宏	kaneda@u.phys.nagoya-u.ac.jp	A
U xg	川村 静児	kawamura@u.phys.nagoya-u.ac.jp	A
Σ E	永岡 賢一	nagaoka@nifs.ac.jp	B
I	小林 義明	i45323a@cc.nagoya-u.ac.jp	A
J	谷山 智康	taniyama.tomo@nagoya-u.ac.jp	A
V	寺崎 一郎	terra@nagoya-u.ac.jp	A
Y	谷口 博基	hiroki_taniguchi@cc.nagoya-u.ac.jp	A
D	内橋 貴之	uchihast@d.phys.nagoya-u.ac.jp	A
G	野口 巧	tnoguchi@bio.phys.nagoya-u.ac.jp	A
K	楳 瓦介	k_maki@synapse.phys.nagoya-u.ac.jp	A
AM	水野 亮	mizuno@isee.nagoya-u.ac.jp	C
S S E	平原 聖文	hirahara@nagoya-u.ac.jp	C
S S T	草野 完也	kusano@nagoya-u.ac.jp	C
C R	伊藤 好孝	itow@isee.nagoya-u.ac.jp	C
SW	徳丸 宗利	tokumaru@isee.nagoya-u.ac.jp	C

\*郵送により志望研究室と連絡をとる場合は下記の住所と担当者氏名を明記すること。

【注】志願票の郵送先とは違うので注意すること

<b>A</b>	〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科 物理科学領域
<b>B</b>	〒509-5292 土岐市下石町 322-6 自然科学研究機構 核融合科学研究所
<b>C</b>	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学宇宙地球環境研究所

## 物質・生命化学領域 志望研究分野 連絡先一覧

研究分野	代表者	職名	Emailアドレス
有機化学研究室	伊丹 健一郎	教授	itami@chem.nagoya-u.ac.jp
機能有機化学研究室	山口 茂弘	教授	yamaguchi@chem.nagoya-u.ac.jp
特別研究室	斎藤 進	教授	saito.susumu@f mbox.nagoya-u.ac.jp
生物有機化学研究室	阿部 洋	教授	h-abe@chem.nagoya-u.ac.jp
有機金属・材料化学グループ	南保 正和	特任准教授	mnambo@itbm.nagoya-u.ac.jp
光物理化学研究室	菱川 明栄	教授	hishi@chem.nagoya-u.ac.jp
物性化学研究室	阿波賀 邦夫	教授	awaga@chem.nagoya-u.ac.jp
量子化学研究室	柳井 育	教授	yanaiti@chem.nagoya-u.ac.jp
物理化学グループ	北浦 良	准教授	r.kitaura@nagoya-u.jp
分子組織化学研究室	田中 健太郎	教授	kentaro@chem.nagoya-u.ac.jp
無機化学研究室	唯 美津木	教授	mtada@chem.nagoya-u.ac.jp
生物無機化学研究室	莊司 長三	教授	shoji.osami@a mbox.nagoya-u.ac.jp

## 生命理学領域 志望研究分野 連絡先一覧

研究分野	代表者	職名	Emailアドレス
分子神経生物学	森 郁 恵	教 授	m46920a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
脳回路構造学	上川内 あづさ	教 授	kamikouchi@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞内ダイナミクス	五島 剛太	教 授	goshima@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞間シグナル	松林 嘉克	教 授	matsu@bio.nagoya-u.ac.jp
生殖生物学	田中 実	教 授	mtanaka@bio.nagoya-u.ac.jp
発生成長制御学	吉岡 泰	准教授	yoshioka@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞制御学	木下 専	教 授	kinoshita.makoto@c mbox.nagoya-u.ac.jp
分子修飾制御学	嘉村 巧	教 授	z47617a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
超分子構造学	成田 哲博	准教授	narita.akihiro@f mbox.nagoya-u.ac.jp
異分野融合生物学	岩見 真吾	教 授	iwami.iblab@bio.nagoya-u.ac.jp
遺伝学	大澤 志津江	教 授	ohsawa.shizue@d mbox.nagoya-u.ac.jp
生体機序論	久本 直毅	教 授	i45556a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
微生物運動	小嶋 誠司	教 授	z47616a@cc.nagoya-u.ac.jp
植物生理学	木下俊則	教 授	kinoshita@bio.nagoya-u.ac.jp
細胞生物学	平子 善章	講 師	s47526a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp
染色体生物学	西山 朋子	准教授	nishiyama@bio.nagoya-u.ac.jp
器官機能学	日比 正彦	教 授	hibi@bio.nagoya-u.ac.jp
海洋生物学	五島 剛太	教 授	goshima@bio.nagoya-u.ac.jp
多細胞秩序	打田 直行	教 授	uchinao@gene.nagoya-u.ac.jp
植物分子シグナル学	多田 安臣	教 授	ytada@gene.nagoya-u.ac.jp

## 名古屋大学大学院理学研究科各領域の案内パンフレットについて

名古屋大学大学院理学研究科では各領域の案内パンフレットを作成しております。

希望者は、次により請求して下さい。

### 1. 請求方法

返信用封筒（角形2号封筒〔A4サイズ〕に返信用切手を貼付）同封のうえ、希望する領域の指定申込先に申し込むこと。その際、封筒の表面に「領域の案内パンフレット請求」と朱書きすること。

### 2. 申込先

領域名	代金	申込先	郵便料金
物理科学	無料	〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部 物理学教室 物理事務室	140円
物理科学 (宇宙地球環境研究所)	無料	〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学研究所事務部 総務課総務グループ 宇宙地球環境研究所担当 ※下記サイトからPDF版もダウンロードできます。 <a href="https://www.isee.nagoya-u.ac.jp/pub/student/2021_graduate_schools.pdf">https://www.isee.nagoya-u.ac.jp/ pub/student/2021_graduate_schools.pdf</a>	250円
物質・生命化学	無料	〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部 化学科 化学事務室	250円
生命理学	無料	下記URLにパンフレットを掲載しております。 <a href="https://www.bio.nagoya-u.ac.jp/images/pamphlet2019.pdf">https://www.bio.nagoya-u.ac.jp/ images/pamphlet2019.pdf</a>	

### B 入試学力検査に関する科目選択票の記入について

- 受験者の氏名を記入しなさい。
- 「有機化学」、「無機・分析化学」、「物理化学」、「生物化学」の4科目から、希望する科目3つを下の空欄①～③に記入しなさい。  
※ 選択科目3つを必ず記入すること。重複は認めない。
- 科目選択票は出願書類の1部として提出すること。それ以外の方法では提出を受け付けないものとする。

### 科目選択票

受験者の氏名：\_\_\_\_\_

①
②
③

速 達

4 6 4 - 8 6 0 2

書留速達扱い  
分の切手を貼って  
ください。

名古屋市千種区不老町

教務学生係御中

「大学院入学試験出願書類在中」

書留速達

差出人	住 所	〒	—
	氏 名		

切り離して下さい

- ・カラーで印刷してください。
- ・住所・氏名・郵便番号を記入してください。(日本国内の住所に限る)
- ・市販の角形2号の封筒(縦332mm×横240mm)に貼り付けてください。  
(郵送中に剥がれてしまうことの無いよう、強くのり付けしてください。)
- ・令和4年3月頃に書類を受け取ることができる住所を記入してください。

## コード番号一覧表

### 出身大学・大学院コード表 [50音順]

国外の大学	8888	江戸川大学	2189	帯広畜産大学	0116	九州看護福祉大学	2907	敬愛大学	2172
表がない大学・ 学位授与機構出身者等	9999	愛媛大学 刈谷市立音楽大学	0352 1305 2744	力 行	嘉悦大学	2324	九州工業大学	2827	慶應義塾大学
ア 行		奥羽大学 桜花学園大学	2101 2487	香川大学	0348	九州国際大学	0372	恵泉女子学園大学	2197
爱国学園大学	2166	桜美林大学	2297	香川医科大学	0468	九州歯科大学	1300	九州産業大学	2321
愛知大学	2488	大分大学	0388	学習院女子大学	2193	九州情報大学	0360	敬和学園大学	2374
愛知医科大学	2494	大分医科大学	0448	鹿児島大学	2261	九州女子大学	2829	県立長崎シボル大学	1329
愛知学院大学	2464	大分県立看護科学大学	1334	鹿児島国際大学	2942	九州保健福祉大学	2932	県立広島女子大学	1284
愛知学泉大学	2489	大阪大学	0292	鹿児島純心女子大学	2946	九州ルーテル学院大学	2906	高知大学	1282
愛知教育大学	0268	大阪青山大学	2637	鹿児島純心女子大学	2946	京都大学	2862	工学院大学	2198
愛知県立大学	1196	大阪医科大学	2602	活水女子大学	2883	共愛学園前橋国際大学	2143	高知工科大学	2517
愛知県立看護大学	1214	大阪音楽大学	2603	神奈川大学	2332	共栄大学	2145	高知県立大学	2670
愛知県立芸術大学	1208	大阪外国语大学	0296	神奈川県立保健福祉大学	1153	京都大学	0280	甲南大学	0356
愛知工科大学	2459	大阪学院大学	2604	神奈川工科大学	2360	京都外国语大学	2540	甲南女子大学	2643
愛知工業大学	2465	大阪教育大学	0300	神奈川歯科大学	2353	京都学園大学	2554	神戸大学	2644
愛知産業大学	2481	大阪経済大学	2577	金沢大学	0236	京都教育大学	0284	神戸海星女子学院大学	0304
愛知淑徳大学	2495	大阪経済法科大学	2623	金沢医科大学	2388	京都光華女子大学	2544	神戸学院大学	2645
愛知文教大学	2486	大阪芸術大学	2605	金沢学院大学	2390	京都工芸繊維大学	0288	神戸芸術工科大学	2646
愛知みづほ大学	2463	大阪工業大学	2578	金沢工業大学	2387	京都嵯峨芸術大学	2560	神戸国際大学	2679
会津大学	1128	大阪国際大学	2624	金沢星陵大学	2386	京都産業大学	2541	神戸市外国语大学	2651
青森大学	2039	大阪産業大学	2606	金沢美術工芸大学	1164	京都女子大学	2542	神戸市看護大学	1248
青森県立保健大学	1113	大阪歯科大学	2579	鹿屋体育大学	0480	京都市立芸術大学	1220	神戸松蔭女子学院大学	1258
青森公立大学	1112	大阪樟蔭女子大学	2607	鎌倉女子大学	2354	京都精華大学	2555	神戸商科大学	2649
青森中央学院大学	2044	大阪商業大学	2608	川崎医科大学	2730	京都造形芸術大学	2557	神戸商船大学	1252
青山学院大学	2190	大阪女学院大学	2635	川崎医療福祉大学	2732	京都創成大学	2559	神戸女学院大学	0308
秋田大学	0140	大阪女子大学	1232	川村学園女子大学	2185	京都橘女子大学	2546	神戸女子大学	2671
秋田経済法科大学	2080	大阪市立大学	1236	関西大学	2614	京都トータル女子大学	2549	神戸親和女子大学	2647
秋田県立大学	1120	大阪成蹊大学	2631	関西医科大学	2615	京都府立大学	1224	神戸アッシュ造形大学	2650
浅井学園大学	2017	大阪体育大学	2609	関西外国語大学	2616	京都府立医科大学	1228	神戸薬科大学	2684
朝日大学	2434	大阪電気通信大学	2610	関西国際大学	2681	京都文教大学	2558	神戸山手大学	2648
旭川大学	2009	大阪人間科学大学	2629	関西鍼灸大学	2632	京都薬科大学	2543	高野山大学	2682
旭川医科大学	0404	大阪府立大学	1243	関西福祉科学大学	2625	共立女子大学	2195	公立はこだて未来大学	2600
麻布大学	2352	大阪府立看護大学	1242	関西福祉大学	2680	共立薬科大学	2196	郡山女子大学	1102
亜細亜大学	2296	大阪観光大学	2628	関西学院大学	2669	杏林大学	2315	国学院大學	2199
足利工業大学	2128	大阪薬科大学	2611	神田外語大学	2181	近畿大学	2617	国際大学	2376
芦屋大学	2666	大谷大学	2539	関東学院大学	2333	神戸医療福祉大学	2683	国際医療福祉大学	2133
跡見学園女子大学	2152	大谷女子大学	2612	関東学園大学	2142	金城大学	2391	国際基督教大学	2133
石川県立看護大学	1165	大妻女子大学	2192	畿央大学	2694	金城学院大学	2466	国際教養大学	2299
石川県立大学	1163	大手前大学	2668	北九州市立大学	1312	钏路公立大学	1104	国際仏教学大学院大学	1121
石巻専修大学	2068	追手門学院大学	2613	北里大学	2194	国立音楽大学	2298	国際武道大学	2260
茨城大学	0152	岡山大学	0332	北見工業大学	0120	熊本大学	0384	国士館大学	2180
茨城糸戸教大学	2113	岡山学院大学	2735	吉備国際大学	2725	熊本学園大学	2904	駒澤大学	2201
茨城県立医療大学	1132	岡山県立大学	1278	岐阜大学	0252	熊本県立大学	1332	駒沢女子大学	2295
いわき明星大学	2103	岡山商科大学	2726	岐阜経済大学	2432	倉敷芸術科学大学	2734	サ 行	0444
岩手大学	0128	岡山理科大学	2727	岐阜県立看護大学	1185	くらしき作陽大学	2728		
岩手医科大学	2055	沖縄大学	2954	岐阜女子大学	2433	久留米大学	2848	埼玉大学	0164
岩手県立大学	1114	沖縄県立看護大学	1349	岐阜聖徳学園大学	2435	久留米工業大学	2857	埼玉医科大学	2160
上野学園大学	2191	沖縄県立芸術大学	1348	岐阜薬科大学	1184	広島文化学園大学	2755	埼玉学園大学	2146
宇都宮大学	0156	沖縄国際大学	2953	九州大学	0368	群馬大学	0160	埼玉県立大学	2143
宇都宮共和大学	2134	小樽商科大学	0112	九州共立大学	2827	群馬県立県民健康科学大学	1142	埼玉工業大学	2161
宇部フロンティア大学	2769	お茶の水女子大学	0204	九州女子大学	2828	群馬県立女子大学	1140	佐賀大学	0376
英知大学	2667	尾道市立大学	1283	九州栄養福祉大学	2864	群馬社会福祉大学	2132	佐賀医科大学	0444

相模女子大学	2356	楣山女学園大学	2467	千葉経済大学	2183	東京電機大学	2232	長崎県立大学	1328
作新学院大学	2131	鈴鹿医療科学大学	2518	千葉工業大学	2173	東京都市大学	2271	長崎国際大学	2885
札幌大学	2001	鈴鹿国際大学	2519	千葉商科大学	2174	東京都立大学	1148	長崎純心大学	2884
札幌医科大学	1100	駿河台大学	2162	中央大学	2223	東京都立科学技術大学	1150	長崎総合科学大学	2882
札幌学院大学	2002	諒訪東京理科大学	2419	中央学院大学	2175	東京都立保健科学大学	1151	長野大学	2417
札幌国際大学	2016	成安造形大学	2525	中京大学	2469	東京農業大学	2233	長野県看護大学	1182
産業医科大学	2858	聖学院大学	2163	中京学院大学	2431	東京農工大学	0212	中村学園大学	2852
産能大学	2361	聖カタリナ女子大学	2804	中京女子大学	2490	東京福祉大学	2144	長浜バイオ大学	2528
山陽学園大学	2733	成蹊大学	2301	中国学園大学	2736	東京富士大学	2326	名古屋大学	0260
滋賀大学	0276	政策研究大学院大学	0496	中部大学	2491	東京薬科大学	2234	名古屋音楽大学	2477
滋賀医科大学	0420	成城大学	2212	中部学院大学	2437	東京理科大学	2235	名古屋外国语大学	2479
滋賀県立大学	1216	星城大学	2485	筑波大学	0408	同志社大学	2547	名古屋学院大学	2471
志學館大学	2945	聖心女子大学	2213	つくば国際大学	2116	同志社女子大学	2548	名古屋学芸大学	2499
滋賀県立大学	1216	清泉女子学院大学	2421	津田塾大学	2303	道都大学	2014	名古屋経済大学	2496
四国大学	2779	清泉女子大学	2214	都留文科大学	1172	東邦大学	2236	名古屋芸術大学	2493
四国学院大学	2790	聖泉大学	2527	鶴見大学	2334	同朋大学	2470	名古屋工業大学	0264
静岡大学	0256	聖徳大学	2188	帝京大学	2304	東邦音楽大学	2155	名古屋産業大学	2460
静岡県立大学	1190	西南学院大学	2849	帝京科学大学	2405	桐朋学園大学	2309	名古屋商科大学	2472
静岡英和学院大学	2451	西南女学院大学	2861	帝京平成大学	2182	東邦学園大学	2484	名古屋女子大学	2473
静岡産業大学	2456	西武文理大学	2149	帝塚山大学	2690	桐朋学園大学院大学	2380	名古屋市立大学	1204
静岡福祉大学	2449	聖マリアンヌ医科大学	2340	帝塚山学院大学	2620	東北大学	0132	名古屋造形芸術大学	2480
静岡文化芸術大学	2457	聖隸クリスマス看護大学	2455	デジタルハリウッド大学	2328	東北学院大学	2062	名古屋文理大学	2462
静岡理工科大学	2454	聖路加看護大学	2215	電気通信大学	0216	東北芸術工科大学	2090	奈良大学	2692
自治医科大学	2140	聖和大学	2672	天使大学	2022	東北公益文科大学	2091	奈良教育大学	0312
実践女子大学	2202	清和大学	2168	天理大学	2691	東北工業大学	2063	奈良県立大学	1266
四天王寺国際仏教大学	2618	撰南大学	2582	東亜大学	2766	東北女子大学	2040	奈良県立医科大学	1264
芝浦工業大学	2203	専修大学	2216	桐蔭横浜大学	2363	東北生活文化大学	2066	奈良産業大学	2693
島根大学	0328	洗足学園音楽大学	2357	東海大学	2224	東北福祉大学	2064	奈良女子大学	0316
島根医科大学	0428	仙台大学	2061	東海学園大学	2482	東北文化学園大学	2070	奈良先端科学技術大学院大学	0492
島根県立大学	1277	仙台白百合女子大学	2069	東海女子大学	2436	東北薬科大学	2065	鳴門教育大学	0476
下関市立大学	1288	千里金蘭大学	2633	東京大学	0172	東洋大学	2237	南山大学	2474
首都大学東京	1149	相愛大学	2580	東京医科大学	2225	東洋英和女学院大学	2364	新潟大学	0228
就実大学	2731	創価大学	2316	東京医科歯科大学	0176	東洋学園大学	2179	新潟医療福祉大学	2368
秀明大学	2184	総合研究大学院大学	0484	東京医療保健大学	2330	東邦大学	2851	新潟県立看護大学	1155
十文字学園女子大学	2150	崇城大学	2903	東京音楽大学	2238	常盤大学	2115	新潟経営大学	2372
淑徳大学	2171	創造学園大学	2124	東京海洋大学	0504	常磐会学園大学	2627	新潟工科大学	2370
種智院大学	2545	園田学園女子大学	2673	東京外国語大学	0180	徳島大学	0344	新潟国際情報大学	2373
順天堂大学	2204	夕 行		東京学芸大学	0208	徳島文理大学	2780	新潟産業大学	2377
松蔭大学	2365	夕 行		東京家政大学	2226	徳山大学	2765	新潟青陵大学	2369
上越教育大学	0452	第一工業大学	2943	東京家政学院大学	2227	常葉学園大学	2452	新潟薬科大学	2375
尚絅大学	2905	第一薬科大学	2850	東京家政学院筑波女子大学	2117	獨協大学	2156	西九州大学	2871
尚絅学院大学	2071	大正大学	2218	東京基督教大学	2187	獨協医科大学	2141	西日本工業大学	2853
城西大学	2154	太成学院大学	2626	東京経済大学	2305	鳥取大学	0324	二松学舎大学	2239
城西国際大学	2170	大同工業大学	2468	東京芸術大学	0184	鳥取環境大学	2710	日本大学	2240
上智大学	2205	大東文化大学	2219	東京工科大学	2319	苦小牧駒澤大学	2019	日本医科大学	2241
湘南工科大学	2355	高岡法科大学	2378	東京工業大学	0192	富山大学	0232	日本工業大学	2157
尚美学園大学	2147	高崎経済大学	1136	東京工芸大学	2358	富山医科薬科大学	0424	日本歯科大学	2242
上武大学	2139	高崎健康福祉大学	2137	東京国際大学	2153	富山県立大学	1160	日本社会事業大学	2243
情報科学芸術大学院大学	1186	高崎商科大学	2138	東京歯科大学	2228	富山国際大学	2379	日本獣医畜産大学	2318
昭和大学	2206	高千穂大学	2220	東京慈恵会医科大学	2229	豊田工業大学	2478	日本女子大学	2244
昭和音楽大学	2362	高松大学	2791	東京純心女子大学	2323	豊橋技術科学大学	0436	日本女子体育大学	2245
昭和女子大学	2207	宝塚大学	2676	東京商船大学	0196	豊橋創造大学	2483	日本赤十字看護大学	2320
昭和薬科大学	2208	拓殖大学	2221	東京情報大学	2186	ナ 行		日本赤十字九州国際看護大学	2865
女子栄養大学	2209	多摩大学	2322	東京女子大学	2230	ナ 行		日本赤十字広島看護大学	2757
女子美術大学	2210	玉川大学	2302	東京女子医科大学	2231	長岡大学	2367	日本赤十字北海道看護大学	2020
白梅学園大学	2329	多摩美術大学	2222	東京女子体育大学	2306	長岡技術科学大学	0432	日本体育大学	2246
白百合女子大学	2300	筑紫女子学園大学	2859	東京神学大学	2307	長岡造形大学	2371	日本橋学館大学	2167
仁愛大学	2396	千歳科学技術大学	2018	東京水産大学	0200	長崎大学	0380	日本福祉大学	2475
信州大学	0248	千葉大学	0168	東京成徳大学	2169	長崎ウェスレヤン大学	2887	日本文化大学	2317
杉野服飾大学	2211	千葉科学大学	2123	東京造形大学	2308	長崎外国語大学	2886	日本文理大学	2914

人間環境大学	2461	藤女子大学	2004	明治大学	2254
人間総合科学大学	2148	藤田保健衛生大学	2492	明治学院大学	2255
ハトケム清心女子大学	2729	富士常葉大学	2458	明治鍼灸大学	2556
<b>八 行</b>					
梅花女子大学	2621	文京学院大学	2164	明星大学	2313
梅光学院大学	2764	文教大学	2158	目白大学	2165
山口福祉文化大学	2768	文星芸術大学	2135	ものつくり大学	2136
白鷗大学	2130	平安女学院大学	2526	桃山学院大学	2581
函館大学	2003	平成音楽大学	2908	盛岡大学	2054
羽衣国際大学	2630	平成国際大学	2151	<b>ヤ 行</b>	
八戸学院大学	2043	別府大学	2915		
八戸工業大学	2042	法政大学	2249	安田女子大学	2751
花園大学	2550	放送大学	0991	山形大学	0144
浜松大学	2453	北星学園大学	2005	山形県立保健医療大学	1122
浜松医科大学	0412	北陸大学	2389	山口大学	0340
浜松学院大学	2450	北陸先端科学技術大学院大学	0488	山口県立大学	1292
阪南大学	2622	星葉科技大学	2250	山口東京理科大学	2767
東日本国際大学	2105	北海学園北見大学	2012	山梨大学	0500
比治山大学	2753	北海学園大学	2006	山梨医科大学	0460
一橋大学	0220	北海道大学	0100	山梨英和大学	2407
姫路工業大学	1260	北海道医療大学	2011	山梨学院大学	2404
姫路獨協大学	2677	北海道教育大学	0104	山梨県立看護大学	1176
兵庫大学	2652	北海道工業大学	2007	山梨県立大学	1177
兵庫医科大学	2653	北海道情報大学	2015	横浜国立大学	0224
兵庫教育大学	0464	北海道東海大学	2013	横浜商科大学	2336
兵庫県立看護大学	1262	北海道文教大学	2021	横浜市立大学	1152
兵庫県立大学	1263	北海道薬科大学	2010	四日市大学	2498
弘前大学	0124	<b>マ 行</b>		<b>ラ 行</b>	
弘前学院大学	2041				
広島大学	0336	前橋工科大学	1138	酪農学園大学	2008
広島経済大学	2745	松阪大学	2497	立教大学	2257
広島県立大学	1286	松本大学	2420	立正大学	2258
広島県立保健福祉大学	1285	松本歯科大学	2418	立命館大学	2552
広島工業大学	2746	松山大学	2803	立命館アジア太平洋大学	2916
広島国際大学	2756	松山東雲女子大学	2805	琉球大学	0400
広島修道大学	2747	三重大学	0272	龍谷大学	2553
広島女学院大学	2748	三重県立大学	1212	流通科学大学	2678
広島市立大学	1287	三重県立看護大学	1215	流通経済大学	2114
広島国際学院大学	2749	南九州大学	2929	ルーテル学院大学	2247
広島文教女子大学	2750	身延山大学	2406	麗澤大学	2176
アーレ学院大学	2583	美作大学	2743	LEO東京リーガルハイド大学	2327
フェリス女学院大学	2335	宮城大学	1116	<b>ワ 行</b>	
福井大学	0240	宮城学院女子大学	2067		
福井医科大学	0456	宮城教育大学	0136	和歌山大学	0320
福井県立大学	1166	宮崎大学	0392	和歌山県立医科大学	1268
福井工業大学	2395	宮崎医科大学	0416	和光大学	2314
福岡大学	2854	宮崎県立看護大学	1338	早稲田大学	2259
福岡教育大学	0364	宮崎公立大学	1336	稚内北星学園大学	2023
福岡県立大学	1322	宮崎国際大学	2931	和洋女子大学	2177
福岡工業大学	2855	宮崎産業経営大学	2930		
福岡国際大学	2863	武庫川女子大学	2674		
福岡歯科大学	2830	武蔵大学	2251		
福岡女学院大学	2860	武蔵工業大学	2252		
福岡女子大学	1320	武蔵野音楽大学	2253		
福島大学	0148	武蔵野大学	2311		
福島県立医科大学	1124	武蔵野美術大学	2312		
福山大学	2752	室蘭工業大学	0108		
福山平成大学	2754	名桜大学	2955		
富士大学	2053	明海大学	2159		

## 出身学部・研究科コード表 [50音順]

【学部コード】		環境理工学部	130	現代ヒジヌ学部	379	社会学部	016	生物資源環境学部	326
表にない学部		看護学部	063	現代福祉学部	238	社会イバーション学部	402	生物生産学部	056
学位授与機構出身者等		観光学部	177	現代文化学部	116	社会科学部	017	生物生命学部	345
ア 行	看護栄養学部	197	現代法學部	239	社会環境学部	268	生物理工学部	099	
	看護福祉学部	103	現代マジメント学部	364	社会情報学部	104	生命環境学部	329	
21世紀アシア学部	358	看護福祉心理学部	234	現代ライク学部	344	社会福祉学部	022	生命環境科学部	328
アシア太平洋学部	230	感性デザイン学部	337	工学部	038	社会文化学部	243	生命システム工学部	341
アシア太平洋マジメント学部	231	管理栄養学部	352	公益学部	274	獣医学部	050	生命理工学部	135
医学部	058	危機管理学部	297	工芸学部	188	獣医畜产学部	049	繊維学部	057
医学専門学群	154	企業情報学部	235	工学資源学部	188	商学部	033	造形学部	069
異文化コミュニケーション学部	318	基礎工学部	039	工芸学部	041	商経学部	034	総合科学部	076
医用工学部	088	技能工芸学部	264	鉱山学部	046	生涯学習システム学部	244	造形芸術学部	081
医療衛生学部	125	九州工学部	302	国際学部	020	商経学部	034	総合管理学部	124
医療看護学部	306	教育学部	003	国際英語学部	283	商船学部	045	総合管理学部	317
医療技術学部	090	教育地域科学部	195	国際・英語学部	319	情報学部	032	総合キャリア学部	248
医療健康科学部	372	教育人間科学部	167	国際開発学部	240	情報科学部	082	総合経営学部	129
医療工学部	389	教育福祉学部	398	国際環境工学部	261	情報環境学部	275	総合情報学部	084
医療福祉学部	089	教育福祉科学部	191	国際関係学部	019	情報工学部	044	総合政策学部	091
医療福祉工学部	340	教育文化学部	187	国際教養学部	229	情報コミュニケーション学部	307	総合人間学部	370
医療福祉マジメント学部	348	共生システム理工学類	334	国際経営学部	126	情報社会科学部	140	総合人間科学部	250
医療保健学部	299	行政社会学部	079	国際経済学部	097	情報社会政策学部	181	総合人間・文化学部	249
衛生学部	036	行政政策学類	332	国際言語学部	149	情報フロンティア学部	397	総合福祉学部	278
栄養学部	064	教養学部	001	国際言語文化学部	012	情報文化学部	106	総合文化学部	342
栄養科学部	285	グローバルビジネス学部	401	国際交流学部	162	情報ゲーリー学部	392	総合理工学部	136
園芸学部	048	経営学部	030	国際コミュニケーション学部	148	情報理工学部	194	食産業学部	369
応用情報学部	226	経営科学部	128	国際社会学部	194	食品栄養科学部	117	食文化学部	295
応用生物学部	276	経営経済学部	102	国際商学部	180	食文化学部	065	創造芸術学部	296
応用生物科学部	175	経営情報学部	031	国際情報学部	176	食物栄養学部	168	ソーシャルワーク学部	183
応用生命科学部	292	経営情報科学部	223	国際食料情報学部	327	神学部	009	ソフトウェア情報学部	151
音楽学部	071	経営政策学部	382	国際政策学部	028	鍼灸学部	078	タ 行	
音楽・文化学部	399	経営文化学部	236	国際政治経済学部	161	心身科学部	363	第一学群	
カ 行	経営法学部	171	国際総合科学部	336	神道文化学部	281	第二学群		
	経済学部	029	国際地域学部	279	人文学部	014	第三学群		
会計ファックス学部	386	経済科学部	165	国際人間学部	086	人文科学部	189	体育学部	
外国語学部	011	経済経営学部	256	国際文化学部	138	人文社会学部	108	体育専門学群	
海事科学部	385	経済経営学類	333	子ども学部	241	心理学部	015	地域学部	
開発工学部	114	経済情報学部	115	コミュニケーション学部	241	心理科学部	224	地域科学部	
海洋学部	055	芸術学部	067	コミュニケーション政策学部	182	心理科学部	355	地域環境科学部	
海洋科学部	383	芸術工学部	042	コミュニケーション政策学部	178	心理福祉学部	322	地域教育文化学部	
海洋工学部	384	芸術専門学群	156	コミュニケーション福祉学部	094	診療放射線学部	304	地域政策学部	
科学技術学部	222	芸術文化学部	271	コンピュータサイエンス学部	059	水産学部	054	地球環境科学部	
香川薬学部	320	健康栄養学部	366	コンピュータ理工学部	225	数理情報学部	184	畜産学部	
学芸学部	004	健康科学部	132	サ 行	185	知的財産学部	051		
家政学部	072	健康管理学部	353	サビス経営学部	109	デザイン学部	376		
学校教育学部	005	健康生活学部	354	サビス産業学部	263	生活科学部	074	デザイン工学部	
環境学部	105	健康福祉学部	269	サビス産業学部	260	生活環境学部	107	デジタルコミュニケーション学部	
環境科学部	133	健康プロフェッショナル学部	400	産業経営学部	021	政策学部	026	電気通信学部	
環境共生学部	190	健康マネジメント学部	286	産業社会学部	387	政策学部	227	電子情報学部	
環境・建築学部	396	言語コミュニケーション学部	305	産業情報学部	150	政策科学部	098	都市環境学部	
環境システム学部	173	現代経営学部	350	産業保健学部	393	政策情報学部	247	都市教養学部	
環境情報学部	085	現代経営情報学部	377	産業理工学部	059	政策マネジメント学部	308	都市経済学部	
環境情報ビジネス学部	232	現代国際学部	391	歯学部	158	生産工学部	040	都市情報学部	
環境造園学部	284	現代コミュニケーション学部	221	事業構想学部	111	生物産業学部	120	図書館情報専門学群	
環境創造学部	270	現代社会学部	139	システム科学技術学部	242	生物資源学部	080		
環境人間学部	186	現代生活学部	356	システム工学部	325	生物資源科学部	137		
環境防災学部	233	現代中国学部	163	システム情報科学部					
環境保健学部	062	現代人間学部	394	システムデザイン学部					

ナ 行			法政経学部	228	【研究科コード】		商船学研究科	645	保健衛生学研究科	753
新潟歯学部		301	法政策学部	164	表がない研究科		情報学研究科	632	保健学研究科	752
日本文化学部		122	法文学部	023	学位授与機構出身者等	999	情報・経営開発研究科	766	保健福祉学研究科	701
人間学部		110	保健学部	061	ア 行		情報科学研究科	682	マ 行	
人間科学部		075	保健医療学部	093	医学研究科	658	情報工学研究科	644	マネジメント研究科	770
人間環境学部		131	保健医療福祉学部	198	医学系研究科	657	人文科学研究科	614	ヤ 行	
人間関係学部		018	保健衛生学部	087	栄養学研究科	664	人文社会科学研究科	615	ラ 行	
人間看護学部		368	保健科学部	142	園芸学研究科	648	心理学研究科	748	薬学研究科	660
人間健康学部		360	保健看護学部	300	音楽研究科	671	水産学研究科	654	薬学系研究科	661
人間社会学部		083	保健福祉学部	101	力 行		数理情報研究科	761	理 行	
人間生活学部		118	ホスピタリティ・ツーリズム学部	338	会計学研究科	762	生活科学研究科	674	理学研究科	635
人間生活科学部		404	マ 行		外国語学研究科	611	生活学研究科	750	理工学研究科	637
人間発達学部		289	マネジメント学部	351	家政学研究科	672	生活健康科学研究科	756	流通科学研究科	727
人間発達文化学類		331	メディア学部	193	学校教育学研究科	605	生産工学研究科	640	タ 行	
人間福祉学部		159	メディア造形学部	359	環境学研究科	706	生物資源学研究科	680	ナ 行	
人間文化学部		134	ヤ 行		環境科学研究科	705	生物資源科学研究科	758	ハ 行	
ネットワーク情報学部		273	薬学部	060	環境マネジメント研究科	776	生命農学研究科	994	サ 行	
農学部		047	ラ 行		看護学研究科	663	生命理工学研究科	735	シ 行	
農学生命科学部		166	酪農学部	053	基礎工学研究科	639	造形芸術研究科	777	カ 行	
ハ 行			理学部	035	教育発達科学研究科	604	総合科学研究科	676	ク 行	
バイオサイエンス学部		374	理科一類	211	経営学研究科	630	総合学術研究科	773	ク 行	
バイオニク学部		361	理科二類	212	経営経済学研究科	702	総合基礎科学研究科	757	ク 行	
発達科学部		092	理科三類	213	経営情報研究科	764	総合政策研究科	772	ク 行	
発達教育学部		390	理工学部	037	経営情報学研究科	631	総合理工学研究科	736	ク 行	
比較文化学部		013	リバビリテーション学部	357	経済学研究科	629	タ 行		ク 行	
光科学部		170	流通学部	143	経済経営研究科	765	体育学研究科	666	タ 行	
ビジネス学部		381	流通科学部	127	経済情報研究科	763	多元数理科学研究科	993	タ 行	
ビジネス情報学部		280	流通経済学部	259	芸術研究科	779	地域科学研究科	767	タ 行	
美術学部		068	流通情報学部	147	芸術学研究科	667	地域政策科学研究科	679	タ 行	
美術工芸学部		070	芸術研究科	667	畜産学研究科	651	地球科学研究科	759	タ 行	
美術文化学部		253	芸術工学研究科	642	畜産学研究科	651	ナ 行		タ 行	
ヒューマンケア学部		321	健康科学研究科	732	中国研究科	740	ナ 行		タ 行	
表現学部		254	現代社会研究科	741	デザイン研究科	778	ナ 行		タ 行	
ファンション造形学部		330	工学研究科	638	電気通信学研究科	643	ナ 行		タ 行	
福岡医療技術学部		403	工学系研究科	737	都市情報学研究科	775	ナ 行		タ 行	
福祉経営学部		365	工芸科学研究科	641	図書館情報学研究科	677	ナ 行		タ 行	
福祉社会学部		169	国際言語文化研究科	995	ハ 行		ナ 行		タ 行	
福祉情報学部		380	鉱山学研究科	646	人間科学研究科	675	ハ 行		ナ 行	
福祉総合学部		388	国際学研究科	620	人間環境学研究科	731	ハ 行		ナ 行	
仏教学部		010	国際開発研究科	991	人間関係学研究科	749	ハ 行		ナ 行	
不動産学部		123	国際関係研究科	619	人間社会学研究科	683	ハ 行		ナ 行	
文学部		006	国際関係学研究科	742	人間情報学研究科	992	ハ 行		ナ 行	
文化学部		160	国際コミュニケーション研究科	743	人間生活学研究科	751	ハ 行		ナ 行	
文科一類		208	国際地域文化研究科	744	人間福祉研究科	754	ハ 行		ナ 行	
文科二類		209	国際人間学研究科	745	人間福祉学研究科	755	ハ 行		ナ 行	
文科三類		210	国際文化研究科	686	人間文化研究科	734	ハ 行		ナ 行	
文化教育学部		145	コミュニケーション研究科	746	農学研究科	647	ハ 行		ナ 行	
文化言語学部		347	コンピュータ理工学研究科	694	サ 行		比較文化研究科	613	シ 行	
文化情報学部		096	サ 行		歯学研究科	659	ビジネス・イノベーション研究科	769	シ 行	
文化政策学部		257	システム自然科学研究科	760	美術研究科	780	シ 行		ク 行	
文化創造学部		258	社会学研究科	616	美術学研究科	668	シ 行		ク 行	
文化表現学部		395	社会科学研究科	617	美術工芸学研究科	670	シ 行		ク 行	
文教育学部		007	社会情報学研究科	704	文学研究科	606	シ 行		ク 行	
文芸学部		008	社会福祉学研究科	622	文化政策研究科	774	シ 行		ク 行	
文理学部		002	獣医学研究科	650	文化創造研究科	747	シ 行		ク 行	
保育学部		290	商学研究科	633	法学研究科	624	シ 行		ク 行	
法学部		024					シ 行		ク 行	
法経学部		025					シ 行		ク 行	

# コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ端末で直接お支払の場合(インターネット不要) ※日本国内のみ

1  
お申込み

セブン-イレブン  
マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある  
「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「学び・教育」より  
お申込みください。



学び・教育

↓  
入学検定料等支払

LAWSON  
MINISTOP  
Loppi Loppi

<http://www.lawson.co.jp>

<http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」  
にある「Loppi」へ。



TOP画面の「各種サービスメニュー」より  
お申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン

↓  
学び・教育・各種検定試験

↓  
大学・短大・専門、  
小・中・高校等お支払い

名古屋大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「払込票/申込券」を発券ください。

\*漢字氏名入力欄において、漢字氏名のない方はカナ入力  
してください。

\*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合が  
あります。

2  
お支払い

①コンビニのレジでお支払ください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi)が  
出力されますので、30分以内にレジにてお支払ください。



②お支払い後、チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。



\*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。

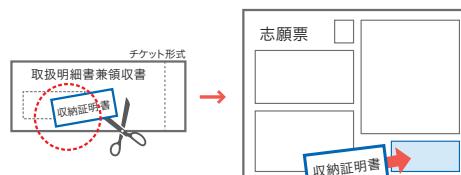
\*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。

\*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払入手数料が別途かかります。

3  
出願

「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の  
「収納証明書」部分を切り取り、志願票の「入学検定料  
収納証明書貼付欄」に貼付して郵送ください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある  
糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



クレジットカードでお支払の場合

<パソコン・スマートフォン>

本学「入学検定料支払い」ページにアクセス



<https://e-apply.jp/n/nagoya-u51/>



申し込み から

画面の指示に従って出願する入試を選んだ後、基本情報を入力。

入力内容が表示されます。間違いがなければ、  
次のページで表示される「受付番号(12桁)」  
を必ず控えたうえ、お支払い画面に進んで  
ください。

\*カード決済完了後の修正・取消はできません。  
申込を確定する前に、内容をよくご確認ください。

クレジットカードでお支払い



●お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくとも構いません。  
但し、前段の画面で入力する基本情報は、  
必ず受験生本人のものを入力してください。



お支払い後に上記URLまたは支払い完了  
メールに記載されたURLへアクセス(※1)し、

「収納証明書の印刷」

からPDFファイルを

ダウンロードの上、印刷してください。

※1:お申込の際に発行された「受付番号(12桁)」  
が必要です。

上記URLからアクセス



※PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要  
となります。



【操作などのお問合わせ先】 学び・教育サポートセンター <https://e-apply.jp/> ※コンビニ店頭ではお応えできません。

## 連絡用シート

志望領域名	
受験番号	※

このシートは、「合格通知書」、「入学手続書類」を送付する際に宛名として使用するので、送付先の住所を正確に記入すること。

また、出願後に「現住所」および「緊急時の連絡先」の住所変更があった場合は、速やかに理学研究科教務学生係へ連絡すること。

□□□-□□□□

(住所)

(氏名)

様

□□□-□□□□

(住所)

(氏名)

様

切り離さないで提出すること